

## H 学内教育参加

### 1. 大学院教育

#### 研究所（協力）講座

当研究所は五つの研究科に協力講座を出し、大学院教育を分担している。

研究科	専攻	講座名
人文社会系	基礎文化研究	東アジア美術史学
	アジア文化研究	比較アジア社会文化論・東アジア社会文化論・南アジア社会文化論・西アジア社会文化論
法学政治学	基礎法学	学際基礎法学
	政治	学際政治学
経済学	現代経済	アジア経済
	経済史	アジア経済史
総合文化	超域文化科学	比較民族誌
	地域文化研究	環インド洋地域文化研究
	国際社会科学	国際経済協力論・世界システム論
農学生命科学	農業・資源経済学	汎アジア経済論
新領域創成科学研究科 学際情報学府	環境学専攻	国際環境協力コース

#### 大学院担当教官

講義を担当している教官は次の通りである。

#### 2000 年度

研究科	専攻	担当教官
人文社会系	基礎文化研究	小川・榎屋・板倉
	アジア文化研究	岡本・濱下・宮嶋・黒田・平勢・甘・丘山・橋本・尾崎・中里・上村・永ノ尾・鈴木・羽田・後藤・鎌田

法学政治学	基礎法学	高見澤
	政治	猪口・田中・鈴木
経済学	現代経済	高橋・柳澤・長澤
	経済史	加納
総合文化	超域文化科学	関本・岡本・名和
	地域文化研究	松井・加納・柳澤・中里・鈴木・ 長澤・羽田・後藤
	国際社会科学	原・田中
農学生命科学	農業・資源経済学	原・池本
新領域創成科学研究科	環境学	菅
学際情報学府		田中・平勢

#### 2001 年度

人文社会系	基礎文化研究	小川・板倉
	アジア文化研究	濱下・宮嶋・黒田・平勢・甘・丘山・ 橋本・尾崎・中里・上村・永ノ尾・ 鈴木・羽田・後藤・鎌田
法学政治学	基礎法学	高見澤
	政治	猪口・田中・鈴木
経済学	現代経済	高橋・柳澤・長澤
	経済史	加納
総合文化	超域文化科学	関本・名和
	地域文化研究	松井・加納・柳澤・中里・鈴木・ 長澤・羽田・後藤
	国際社会科学	原・田中
農学生命科学	農業・資源経済学	原・池本
新領域創成科学研究科	環境学	菅
学際情報学府		田中・平勢

#### 2002 年度

人文社会系	基礎文化研究	小川・榎屋・板倉
	アジア文化研究	濱下・黒田・平勢・丘山・橋本・ 尾崎・大木・中里・上村・永ノ尾・ 鈴木・鎌田

法学政治学	基礎法学	高見澤
	政治	猪口・田中・鈴木
経済学	現代経済	高橋・柳澤・長澤
	経済史	加納
総合文化	超域文化科学	関本・名和
	地域文化研究	松井・柳澤・中里・鈴木・長澤・羽田・高橋
	国際社会科学	原・田中
農学生命科学	農業・資源経済学	原・池本
新領域創成科学研究科	環境学	菅
学際情報学府		原・平勢

## 2. 学部教育

講義を担当している研究所スタッフは次の通りである。

### 2000 年度

文学部	平勢・小川・丘山・後藤・榎屋・板倉
教養学部	田中・関本・加納・柳澤・中里・羽田
経済学部	高橋
農学部	原

### 2001 年度

文学部	平勢・小川・丘山・榎屋・板倉
教養学部	田中・関本・名和・加納・柳澤・中里
経済学部	宮崎
農学部	原

### 2002 年度

文学部	平勢・小川・丘山・板倉
法学部	鈴木
教養学部	田中・関本・名和・加納・柳澤・中里
経済学部	池本
工学部	原

## I 執筆著書・論文等総数及び受賞

本研究所の教官が2000・01年度に発表した著書・論文等の点数は次の通りである。

著書 50 冊, 論文 170 本, その他 357 点

本研究所の教官が2000・01年度に受賞した賞は次の通りである。

東方学会賞	大木 康	2000 年
読売・吉野作造賞	田中 明彦	2001 年
大同生命地域研究奨励賞	原 洋之介	2001 年
中村 元東方学術賞	上村 勝彦	2001 年
大平正芳記念賞	高橋 昭雄	2002 年

## VIII 所員の活動

### 汎アジア部門

原 洋之介 はら ようのすけ

#### 略 歴

1944.2 生。1967 東大・農・農経卒。1969 同大学院農学・農経・修士課程修了。1972 同博士課程退学。1976 農学博士（東大）。1972 年東文研助手，その間 1975-1977 年まで国際連合アジア太平洋経済統合委員会（バンコク）に派遣，1978 国際開発センター研究員（非常勤），東大農学部非常勤講師，1979 東文研助教授，1988 同教授。1998-2001 東洋文化研究所長，東京大学評議員，ならびに附属東洋学研究情報センター長，2002 情報学環教授，東文研併任教授。

#### 研究活動の概要

理論経済学がその機能をときあかしている市場経済に関して地域研究の視点からその理論の拡張をはかると同時に，地域研究が焦点をあてているアジア各地の社会構造に対応して市場経済の展開に地域性がみられることを比較論的に解明する研究を続けている。

#### 過去の主要業績（2000.3 まで）

『東南アジア諸国の経済発展』東文研報告 1994 xvii+464 頁

『アジア・ダイナミズム』NTT 出版 1996 243+x 頁

『エリア・エコノミックス』NTT 出版 1999 247+vii 頁

ほか多数

#### 過去 2 年間の業績

『アジア型経済システム』中公新書 2000 v+226 頁

『現代アジア経済論』岩波書店 2001 x+244 頁

『開発経済論 第 2 版』岩波書店 2002 xi+238 頁

ほか 20 点

#### 学外活動

京都大学東南アジア研究センター併任教授 (1997. 11~1998. 3), 農林水産省農業総合研究所専門委員 (1990. 4以降), 財務省財政総合研究所特別研究官 (1995. 4以降), 国際開発センター研究顧問 (1985. 4以降), 大蔵省外国為替等審議会委員 (1997. 10~1998. 6), 農林水産省独立行政法人評価委員会専門委員 (2001. 4以降)

池本 幸生 いけもと ゆきお

#### 略 歴

1956. 6 生。1980 京大経卒。1993 京都大学博士 (経済学)。1980 アジア経済研究所入所, 1987 海外派遣員 (タイ国チュラロンコン大学社会科学研究所, 1989 年まで), 1990 アジア経済研究所退職, 京都大学東南アジア研究センター助教授, 1993 東南アジア研究センター・バンコク連絡事務所駐在 (94 年まで), 1998 東文研助教授, 2002 同教授。

#### 研究活動の概要

- (1) 東および東南アジアの所得分配と貧困
- (2) 貧困問題に対する潜在能力アプローチの応用
- (3) 世界所得分布の歴史的研究
- (4) 東南アジアにおける伝統織物に関する研究
- (5) ベトナム・コーヒーの研究

過去の主要業績 (2000. 3 まで)

*Income Distribution in Thailand: Its Changes, Causes and Structure*, Institute of Developing Economies, 1992. Xiii+192 頁

"An Expansion of Cottage Industry in Northeast Thailand—A Case of Triangular Pillow in Yasothon Province" 『東南アジア研究』 33-4 1996. 3, 122-137 頁

「ASEAN4 の所得分配」大蔵省財政金融研究所編『ASEAN4 の金融と財政の歩み——経済発展と通貨危機』(1998 年 11 月) 157-171 頁

「タイにおける地方間格差の多様性」大野幸一編『経済発展と地域経済構造——地域経済学的アプローチの展望』アジア経済研究所 2000 年 3 月 59-81 頁

ほか多数

#### 過去2年間の研究業績

“Poverty Alleviation Policies and Ethnic Minority People in Vietnam” presented at a conference on “Justice and Poverty: Examining Sen’s Capability Approach” held at Von Hugel Institute, St Edmund’s College, University of Cambridge, 6–7 June 2001. (Discussion Paper No. 01–PanAsia–02) 2001, 6, 157–171 頁

「1930年代東南アジアの貿易と経済」 籠谷・秋田編『1930年代のアジア国際秩序』 溪水社 2001. 4 157–171 頁

“Income Inequality and Kuznets’ Hypothesis in Thailand” (Co-authored with Uehara Mine) *Asian Economic Journal* Vol. 14 No. 4, Dec. 2000, 421–443 頁  
ほか10点

#### 本学以外での教育活動

大阪外国語大学タイ文化特殊講義Ⅲ（非常勤講師 1995～）、大阪大学大学院経済学研究科「アジア経済史」（非常勤講師 2000）

#### 学外活動

東アジア経済学会，進化経済学会，アジア政経学会

高地 薫 こうち かおる（2001.10採用）

#### 略 歴

1971.5 生。1994 東大教養卒。1996 学術修士（東大）。1997 インドネシア，ガジャ・マダ大学留学（1999 まで），2001 東大大学院総合文化研究科博士課程退学，2001 東文研助手。

#### 研究活動の概要

1950～60年代にかけてのインドネシアの政治，とりわけスカルノ体制確立に向けた時代の政治を，主に言説の政治という観点から研究している。近年の政治状況との比較も視野に入れている。

#### 過去の主要業績（2000.3 まで）

〔修士論文〕「民族統一と統一戦線：インドネシア共産党の政策と認識，1954～1957年」（1996，東大）

#### 過去2年間の研究業績

〔書評〕「白石隆著『海の帝国——アジアをどう考えるか』」『アジア研究』47-2（2001.4），90–93 頁

〔翻訳〕 プラムディヤ・アナンタ・トゥール「文学を通して歴史と民族を見直す」『世界』683 2001. 1 129-138頁

#### 学外活動

東南アジア史学会, アジア政経学会

猪口 孝 いのぐち たかし

#### 略 歴

1944. 1 生。1966 東大・教養・教養卒。1968 東大社会学, 国際関係論・修士号。1974 マサチューセッツ工大政治学部大学院政治学博士号。1969-1970 上智大学助手, 1974-1977 上智大外国語助教授, 1977-1988 東大東文研助教授, 1984-1986 東文研東洋学文献センター助教授, 1988-東文研教授, 1993-1995 国際連合大学兼任研究員, 1995-1997 国際連合大学上級副学長, 1977-1978 スイス・ジュネーブ大学客員教授, 1983-1984 ハーバード大学客員研究員。

#### 研究活動の概要

アジアの国際政治, 日本政治, 政治理論の研究。刊行は47冊, (洋書23冊), 論文は数百本。社会科学研究の引用索引として最も権威のある Social Science Citation Index に頻繁に引用される。

#### 過去の主要業績 (2000. 3 まで)

「政治学事典」主編者 弘文堂 2000 1327頁

「現代政治学叢書」主編者 東京大学出版会 1988- 4603頁

*The Political Economy of Japan* (Stanford: Stanford University Press, 1988)  
566頁

*American Democracy Promotion* (Oxford: Oxford University Press, 2000) 353  
頁

ほか数十点

#### 過去2年間の研究業績

*Japanese Foreign Policy Today* (New York: Palgrave, 2000) 316頁

*Global Change* (Basingstoke, U. K.: Palgrave, 2001) 288頁

*Japan's Asian Policy* (New York: Palgrave, 2002) 310頁

ほか著作8点, 論文21点, その他142点

#### 学外活動

日本国際政治学会 (理事長), 法制審議会委員, Japanese Journal of Political



Science (Cambridge University Press) (編集長), International Relations of the Asia Pacific (Oxford University Press) (編集長)

田中 明彦 たなか あきひこ

## 略 歴

1954.8 生。1977 東大・教養・教養卒。1981 Ph. D. (政治学・マサチューセッツ工大)。1981 平和・安全保障研究所研究員, 1983 東大教養学部助手, 1984 東大教養学部助教授, 1986-1987 ルール大学ボーフム客員教授, 1990 東文研助教授, 1994-1995 オックスフォード大学セントアントニーズカレッジ客員研究員, 1998 東文研教授, 2000-2002 大学院情報学環教授 (東文研教授併任), 2002 東洋文化研究所長, ならびに東京大学評議員, 東洋学研究情報センター長。

## 研究活動の概要

世界システムについての理論的・実証的な分析, 現代東アジアの国際政治の分析, および国際政治分析のためのデータベース作成ならびにコンピュータによる分析手法の開発を行っている。

## 過去の主要業績 (2000.3 まで)

『日中関係 1945-1990』東京大学出版会 1991 246 頁

『新しい「中世」』日本経済新聞社 1996 307 頁

『安全保障』読売新聞社 1997 382 頁

ほか著書4点, 論文74点, その他多数

## 過去2年間の研究業績

『ワード・ポリティクス—グローバル化の中の日本外交』筑摩書房  
2000年 312 頁

“Domestic Politics and Foreign Policy,” Inoguchi Takashi and Purnendra Jain, eds., *Japanese Foreign Policy Today: A Reader* (New York: Palgrave, 2000), pp. 3-17.

“The International Context of U. S. -Japan Relations in the 1990 s,” in Gerald L. Curtis, ed., *New Perspectives on U. S. -Japan Relations* (Tokyo: Japan Center for International Exchange, 2000), pp. 265-293

ほか論文7点, その他多数

## 学外活動

アジア政経学会 (理事), 日本国際政治学会 (理事, 運営委員, 事務局長), 東

アジア・ビジョン・グループ日本委員 (1999.10-2001.11)

原田 至郎 はらだ しろう (2000.10 昇任転出)

#### 略 歴

1967.10 生。1990 東大・教養・教養卒。同年東大大学院総合文化・国際関係論・修士課程入学，1992 同修了。同年同博士課程進学，1994 日本学術振興会特別研究員，1996 同採用期間満了，同年東大大学院博士課程退学，同年東文研助手，2000.10 東大大学院情報学環助教授。

#### 研究活動の概要

研究対象としては戦争，研究手法としてはコンピュータ利用に主な関心がある。現在は，武力紛争の展開・終結について統計的分析やシミュレーションを試みる一方，クメール文字情報処理システムの研究開発およびその規格化の制度研究を行っている。

#### 過去の主要業績 (2000.3 まで)

「世界システムレベルの戦争相関因子」『相関社会科学』2・3 1992 135-151 頁

「近代世界システムにおける戦争とその統計的記述 1495 年から 1989 年まで」山本吉宣・田中明彦編『戦争と国際システム』東京大学出版会 1992 年，第 2 章，73-102 頁。

「現代の戦争とその終結 冷戦終結の影響」『東洋文化研究所紀要』136 1998 1-21 頁

“Regional arrangements, the United Nations, and security in Asia (co-authored with Akihiko Tanaka),” in Muthiah Alagappa and Takashi Inoguchi (eds.), *International security management and the United Nations*, United Nations University Press, 1999.

「コンピュータ上におけるクメール語文字利用の現状と改善試案」『東文研究紀要』139 2000 382-365

ほか 5 点 (論文 4 点，翻訳 1 点)

#### 過去 2 年間の研究業績

「国際政治の数量分析——戦争研究における例」社団法人オペレーションズ・リサーチ学会編『OR 事典 2000』2000 事例編 319 (CD-ROM)

“Post-WWII Asian Wars and Their Termination: Impact of the End of the

Cold War and 'Greater China'”, 東京大学東洋文化研究所編『「香港返還に伴う東アジア社会への影響に関する調査」研究成果報告書』2001 50-69 頁  
“The Procedural Problems in Making the 'International Standard' Code for Khmer Script”, paper presented at *IT Awareness Seminar*, 2001, Phnom Penh, September 12, 2001.

ほか1点(論文1点)

#### 学外活動

日本国際政治学会, 国際法学会, 日本政治学会

山本 和也 やまもと かずや (2001.4のみ)

#### 略歴

1971.1生。1994中大法・卒。1997東大大学院法学政治学研究科・修士課程修了。2001同大大学院総合文化研究科・博士課程退学, 2001.4東文研助手, 同年5月情報学環助手。

#### 研究活動の概要

世界システムの思想的・実証的研究と日本の対外経済政策の歴史的研究。現在は, 歴史上存在した世界システムがどのようなプロセスで接触・統合していくのかをコンピュータ・シミュレーションを用いて検討。

#### 過去の主要業績(2000.3まで)

「北方領土問題と国際関係論」(書評)『国際問題』No.462 1998.9 60-62 頁

ほか2点

#### 過去2年間の業績

リチャード・ヒゴット「グローバル化時代の公正と統治」(翻訳)『レヴァイアサン』26 2000.4 8-43 頁

#### 学外活動

日本国際政治学会(ニューズレター委員)(2001.4~現在), International Studies Association

松井 健 まつい たけし

## 略 歴

1949.6 生。1972 京大・理卒。1974 京大大学院理・動物・修士課程修了。1976 京大大学院理・動物・博士課程退学，同年京大人文学研究所助手，1980 理学博士（京大）。1983 神戸学院大教養部助教授，1990 神戸学院大人文学部助教授，1991 同教授，1992 東文研助教授，1994 同教授。

## 研究活動の概要

認識人類学を中心にした文化記述のための方法論に関する研究，自然をめぐる文化的なプラクシスについての通文化的研究，および，アフガニスタン・イラン東部・パキスタン・インド西部を対象とする西南アジア乾燥地帯の諸文化の記述的研究。

## 過去の主要業績（2000.3 まで）

『セミ・ドメスティケーション—農耕と遊牧の起源再考—』海鳴社 1989  
iv+244 頁

『認識人類学論攷』昭和堂出版 1991 ix+243 頁

『自然の文化人類学』東京大学出版会 1997 xviii+218 頁

『文化学 of 脱=構築—琉球弧からの視座』榕樹書林 1998 232+vi 頁  
ほか多数

## 過去2年間の研究業績

『自然観の人類学』（編著書）榕樹書林 2000 445 頁

『西南アジア遊牧民族記』国立歴史民俗博物館 2000 94 頁

『遊牧という文化—移動の生活戦略』吉川弘文館 2001 213 頁

ほか論文1点

## 本学以外での教育活動

静岡大学人文学部（2000 年度），広島大学総合科学部（2001 年度）

## 学外活動（1998.4～2000.3）

日本民族学会，日本文地理学会，国立民族学博物館研究協力者・共同研究員，  
沖縄国際大学南島文化研究所特別研究員

## 略 歴

1963.10 生。1986 筑波大・第一・人文卒。1989 筑波大大学院博士課程歴史・人類学・文化人類学（民俗学）・文学修士取得。1991 同・退学，同年国立歴史民俗博物館助手，1996 北海道大学文学部助教授，1998 博士（文学・筑波大）。1999 東文研助教授。

## 研究活動の概要

東アジア（とくに日本，中国）社会における伝承的技術・社会システムが，環境の持続性可能性といかに連関しているか，という問題について，環境民俗学・民俗動物学的見地から考究している。

## 過去の主要業績（2000.3 まで）

「閉じこめられたヒツジたち——中国江南農耕社会のヒツジ飼育から見た商品経済の発展」『東文研紀要』135 1998 95-139 頁

「深い遊び——マイナー・サブシステムの伝承論」篠原徹編 『現代民俗学の視点 1 民俗の技術』朝倉書店 1998 217-246 頁

「闊コオロギからみた中国漢人都市民の自然観」『北海道大学文学部紀要』47-4 1999 25-92 頁

「川の景観——大川郷にみるコモンズとしての川」鳥越皓之編 『講座人間と環境 4 景観の創造』昭和堂 1999 92-117 頁

ほか多数

## 過去2年間の研究業績

『修験がつくる民俗史——鮭をめぐる儀礼と信仰』吉川弘文館 2000 284 頁

「自然をめぐる民俗研究の三つの潮流」『日本民俗学』227 日本民俗学会 2001 14-29 頁

「上海松江區解放前の土地所有」『華東師範大学学報』33 華東師範大学 2001 91-95 頁

ほか論文5点，その他3点

## 本学以外での教育活動

筑波大学第一学群（2001年度），東京農工大学農学部（2002年度）

## 学外活動

日本民俗学会，日本民族学会（広報情報化委員会），生態人類学会（理事），環境社会学会（研究活動委員），応用動物行動学会（評議員），ヒトと動物の関係学会，日本民具学会，国立歴史民俗博物館共同研究員，新潟県立博物館共同研究員

## 略 歴

1947.1 生。1972 東大・教養・教養卒。1974 修士（社会学・東大）。1976 国立民族学博物館助手，1981 一橋大社会学部講師，1982 カリフォルニア大学バークレイ校人類学部客員研究員（1984 まで），1983 一橋大社会学部助教授，1987 東文研助教授，1991 東文研教授。

## 研究活動の概要

専門は文化人類学・東南アジア地域研究。インドネシアのジャワ島を中心に、農村の社会文化変容，政治と文化，海外移民などの研究を行ってきた。現在は、伝統工芸と地場産業の研究を東南アジアの他の地域との比較で進めている。

## 過去の主要業績（2000.3 まで）

『現代の社会人類学』全3巻（共編著）東京大学出版会 1987年 665頁

「ジャワ人のヒエラルキーと自由一村人の集いの二つの形」『東文研紀要』116  
1992 247-293頁

『国民文化が生まれる時』（共編著）リプロポート 1994 271頁

*Handicrafts and Industrial Development in Southeast Asia*, Toyota Foundation Research Grant Report, 2000, 298 pp.

ほか34点

## 過去2年間の研究業績

「周縁化される伝統——バティックから見るジャワの近代」『民族学研究』65-  
3 2000 268-284頁

“Innovation, Change and Tradition in the Batik Industry,” in *Building on Batik: The Globalization of a Craft Industry*, eds. Michael Hitchcock and Wiendu Nuryanti (London: Ashgate, 2000), 23-31.

「布と人類学—世界とつながるローカルな伝統」東京大学東洋文化研究所編  
『アジアを知れば世界が見える』小学館 2001 298-307頁

ほか5点

論文2点，その他6点

## 学外活動

日本民族学会（理事・編集主任），東南アジア史学会，American Anthropological Association，Association for Asian Studies，国立民族学博物館共同研究員（2000.4-2002.3），中部大学中部高等学術研究所客員教授（2000・2001年度），財団法人国際文化会館評議員（2000.4-2002.3）

略 歴

1966.11 生。1990 東大・教養・教養卒。1992 年東大大学院総合文化・文化人類学修士課程修了。1999 東大大学院総合文化・超域文化科学博士課程修了，博士（学術）。1992 ネパール王国トリブヴァン大学客員研究員（1995 まで），1996 日本学術振興会特別研究員（DC2，1998 まで），2000 日本学術振興会特別研究員（PD，同年 3 月まで）。2000 東文研助教授。

研究活動の概要

極西部ネパール，ビャンス地方での調査をもとに，民族範疇を含む社会範疇の構成，儀礼の変容過程とそれに対する慣習的行為や語られる規範の関係，言語使用と知識の分配といった主題について，民族誌的な研究を行ってきた。

過去の主要業績（2000.3 まで）

「民族論の発展のために——民族の記述と分析に関する理論的考察」『民族学研究』57-3 1992 297-317 頁

「ネパール，ビャンスにおける民族諸範疇とその用法」『民族学研究』61-4 1997 546-564 頁

「ネパール，ビャンスにおける神々の祭祀」『南アジア研究』10 1998 32-55 頁

“Ethnic Categories and International Border: The Case of Byans, Far-Western Nepal” *Journal of the Indian Anthropological Society*, 33, no. 1 (1998): 65-75.

ほか，論文 1 点，その他 7 点

過去 2 年間の主要業績

『ネパール，ビャンスにおよび周辺地域における儀礼と社会範疇に関する民族誌的研究——もう一つの〈近代〉の布置』三元社 2002 xliii+453 頁

“Ethnic Categories and their Usages in Byans, Far Western Nepal.” *European Bulletin of Himalayan Research* 18 (2000): 36-57.

「ネパール，ビャンスにおける「母語」をめぐる諸問題——言語名の用法と指示対象をめぐる」『ことばと社会』4 2000 201-220 頁

ほか，論文 2 点，その他 6 点

本学外での教育活動

東京外国語大学外国語学部（2000・2001 年度），青山学院大学（全学共通科目），（2000 年度），立教大学文学部（2000・2001 年度），東京都立大塚看護専門学校（2000 年度）

## 学外活動

日本民族学会，日本南アジア学会，国立民族学博物館共同研究員（～2001.3），  
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員（2001.11～）

岡本 サエ おかもと さえ（2001.3 定年退官）

## 略 歴

1941.3 生。1964 東大・教養学部卒。1966 東大大学院人文・比較文化・修士。  
パリ大学人文学部博士（Docteur de l'université de Paris）。1969 東大教養学部  
助手，1971 東文研助手，1977 千葉大教養部助教授，1990 東洋学文献センター教  
授（1998 まで），東文研教授兼務，1991 同文献センター主任兼務（1998 まで），  
1999 東文研教授（2001.3 まで）。2001 東京大学名誉教授。

## 研究活動の概要

東アジアの近世社会を，1) 比較思想 2) 出版文化 に焦点を絞って研究。1)  
『近世中国の比較思想』ほか。解題集『アジアの比較文化』を印刷中。2) 欧米図  
書館に伝存するイエズス会漢訳書の版本を調査中。

## 過去の主要業績（2000.3 まで）

『清代禁書の研究』東文研紀要別冊 東京大学出版会 1996 vii+734 頁

『近世中国の比較思想』東文研紀要別冊 2000 vi+596 頁

「現代中国書データベースの構成と問題点」『東洋文化』79 1999 15-38 頁

The Situation of Chinese Censorship under Emperor Yongzheng, *The Mem-  
oirs of Toyobunko* 56, 1998: 49-62 頁

ほか 30 点

## 学外活動

日仏東洋学会（評議員，監事），中国社会文化学会（評議員），R. B. S.（中国研  
究文献紹介仏誌）寄稿会員，前田奨学基金運営委員



## 東アジア部門（第一）

高見澤 磨 たかみざわ おさむ

### 略 歴

1958.6 生。1982 東大法卒。1982 法学修士（東大）。1994 博士（法学・東大）。  
1993 東大教養学部助手，1994 同退職，同年立命館大学国際関係学部助教授，  
1997 同退職，同年東文研助教授，1998 海外研修（北京外国語大学北京日本学研  
究センター主任教授補佐），1999 帰国。

### 研究活動の概要

従来，中華人民共和国における紛争と紛争解決，中華人民共和国における法源，  
中国法研究の作法，の3つを中心に研究を行ってきた。現在，清末以降の中華民  
国に至る中国近代法史研究にも着手している。

### 過去の主要業績（2000.3 まで）

「中華人民共和国における法源」『法制史研究』40号 1991 77-110 頁

「中国法の調べ方」社会主義法研究会『社会主義法のうごき』1997年3月別冊  
40-48 頁

『現代中国の紛争と法』東京大学出版会 1998 246 頁

共著『現代中国法入門』有斐閣 初版 1998 322 頁

ほか45点

### 過去2年間の研究業績

共著『現代中国法入門』有斐閣 第二版 2000 335 頁

「近代経験」と体制転換」社会体制と法研究会『社会体制と法』2号 2001  
54-62 頁

「中国法は役に立つのか」東京大学東洋文化研究所編『アジアを知れば世界が  
見える』小学館 2001 278-286 頁

ほか9点

### 本学以外での教育活動

千葉大学法経学部（2001年度）

### 学外活動

比較法学会，法制史学会（企画委員），中国社会文化学会，比較法史学会，日

本現代中国学会（理事）、環日本海学会

黒田 明伸 くろだ あきのぶ

#### 略 歴

1958.2 生。1980 京都大学文学部卒。1982 修士（文学・京都大学）。1995 博士（経済学・京都大学）。1986 京都大学助手，1987 大阪教育大学講師，1989 名古屋大学助教授，1997.10 東文研助教授，2002 東文研教授。

#### 研究の概要

伝統中国の貨幣・金融・市場構造・財政，ならびにそれらについての日本・朝鮮・インド・紅海周辺ならびに西ヨーロッパとの比較史，16世紀以降の世界経済とアジア諸帝国との相互連関，貨幣の非対称性についての理論的研究。

#### 過去の主要業績（2000.3 まで）

『中華帝国の構造と世界経済』名古屋大学出版会 1994 337+19 頁

「二〇世紀初期太原県にみる地域経済の原基」『東洋史研究』54-4 96.3 103-136 頁

「伝統市場の重層性と制度的枠組——中国・インド・西欧の比較」『社会経済史学』64-2 1998.7 115-138 頁

「16・7世紀環シナ海経済と銭貨流通」歴史学研究会編『越境する貨幣』青木書店 1999 3-41 頁

ほか論文 13 点

#### 過去 2 年間の研究業績

“What Did the Silver Influx Really Do to Early Modern Asia?”『中国の歴史世界』東京都立大学出版会 2002 395-403.

“Concurrent Currencies in History: Comparison of Traditional Monetary Systems between India and China”, *Proceedings to the 13<sup>th</sup> International Economic Historian Congress*, for Session 15 “Global Monies and Price Histories, 16<sup>th</sup> -18<sup>th</sup> Centuries”. (近刊)

“Seasonal Fluctuation, Multi-layered Market and Monetary Diversity: How to Make or not to Make a Single Domestic Currency”, *Proceedings to the 13<sup>th</sup> International Economic Historian Congress*, for Session 22.

“Comparative Analyses of Economic Performance across Eurasia in Age of Early Industrization”. (近刊)

ほか1点

本学以外での教育活動

名古屋大学文学部 (2000), 大阪大学経済学部 (2001)

学外活動

社会経済史学会 (編集委員), 東洋史研究会, 歴史学研究会

宮崎 博史 みやま ひろし (2002.4 退職)

略 歴

1948年10月生。1972京大・文・史学卒。1974京大大学院・東洋史・修士課程修了。1977同博士課程退学。1979東海大学文学部専任講師, 1981都立大人文学部助教授, 1983東文研助教授, 1992同教授, 1999東文研附属東洋学研究情報センターに配置換, 1991ソウル大学校経済研究所研究員。2002東文研配置換, 同年退職。

研究活動の概要

17-20世紀初頭にかけての朝鮮の社会経済的変動を長期的視野から研究するとともに, 東アジアにおける歴史的文献資料のあり方を総合的に比較研究することを目指している。

過去の主要業績 (2000.3 まで)

『朝鮮土地調査事業史の研究』東文研紀要別冊 1991 554頁

『両班 (ヤンバン)』中公新書 1995 220頁

『アジアから考える 6. 長期社会変動』(編著) 東大出版会 1994 306頁

『近代朝鮮水利組合の研究』(共著) 日本評論社 1992 394頁

ほか42点

過去2年間の研究業績

『近代交流史と相互認識 I』共編著 慶応大学出版会 2001 402頁

「死亡の季節的分布とその時期的変化」安秉直・李栄薫編 『マッチルの農民たち——韓国近世村落生活史』(韓国文) 湖閣(ソウル) 27頁

「名前と国家——朝鮮史からの展望」東京大学東洋文化研究所編 『アジアを知れば世界が見える』小学館 2001 10頁

ほか3点

本学以外での教育活動

東洋大学大学院・文学研究科 (2000・2001年度)

## 学外活動

朝鮮史研究会，韓国經濟史学会，日韓歴史家会議運営委員（2001.3～現在）

平勢 隆郎 ひらせ たかお

## 略 歴

1954. 8 生。1979 東大・文・東洋史卒。1981 東大大学院人文・東洋史・修士課程修了。鳥取大学教育学部助手，同専任講師，同助教授，九州大学文学部助教授を経て，1992 年東文研助教授，1999 年同教授，2000 年大学院情報学環教授・東文研併任教授。

## 研究活動の概要

中国史上の大変革期である春秋戦国時代の歴史的な性格は何かを一貫して追求してきている。この時代は，史料批判が他の時代に比較してより特殊な位置づけをもつので，考古史料の活用が不可欠となる。

## 過去の主要業績（2000.3 まで）

『新編 史記東周年表——中國古代紀年の研究序章』（東洋文化研究所叢刊 15 輯）

東京大学東洋文化研究所・東京大学出版会 1995 v+670 頁

『中國古代紀年の研究——天文と曆の検討から』（東洋文化研究所叢刊 17 輯）

東京大学東洋文化研究所・汲古書院 1996 xi+270+202 頁

『左傳の史料批判的研究』（東文研紀要別冊）東洋文化研究所・汲古書院 1998

xiv+681+34 頁

## 過去 2 年間の研究業績

『中国古代の予言書』講談社 2000 246 頁

『文字と呪術の帝国』中央公論新社 2001 ii+280 頁

他 13 点

## 本学以外での教育活動

川村学園女子大学（2000・01 年度），東京学芸大学（2000・01 年度），金沢大学文学部（2001 年度），明治大学文学部（2001 年度）

## 学外活動

史学会（評議員），出土資料学会（理事・編集委員），日本甲骨学会，東洋学会，東方学会，東洋史研究会，社会文化学会，九州史学会，日本中国考古学会，島根考古学会，歴史学研究会，書学書道史学会

甘 懐真 かん かいしん (2000.8 任期満了)

#### 略 歴

1963. 1 生。1985 台湾大学歴史系卒。1988 文学修士 (台湾大学)。1993 文学博士 (台湾大学)。1994 台湾の東呉大学副 (助) 教授, 1995 台湾大学歴史系副教授, 1999. 9-2000. 8 まで東京大学東洋文化研究所助教授, 2000. 9 から台湾大学歴史系副教授 (現職)。

#### 研究活動の概要

中国古代の礼制と国家構造を中心に研究を行ってきた。今後は礼制の観点から中国古代における政治的秩序の原理を検討していきたい。

#### 過去の主要業績 (2000. 3 まで)

『唐代家廟礼制研究』台北 商務印書館 1991 150 頁

「中国中古時期「国家」的型態」『東呉大学歴史学報』1 1995 71-107 頁

「魏晉時期的安靜觀念：兼論古代威儀觀的発展」『台大歴史学報』20 1996  
407-462 頁

「中国中古時期君臣関係初探」『台大歴史学報』20 1997

#### 過去 2 年間の研究業績

『「大唐開元礼」中天神観』『第五回唐代文化学術研討会論文集』2001

『中国文化史』台北 三民書局 2001

#### 学外活動

『台大歴史学報』常務編集, 『新史学』雑誌社常務社員

陶安 あんど すえやす あんど (2001.3 任期満了)

#### 略 歴

1968. 5 月生。国籍：ドイツ。1992 京都大学学士 (法学)。1994 京都大学修士 (法学)。2000 京都大学博士 (法学)。1997-1998. 3 月京都大学法学部・助手, 1998 年 4-1999. 3 京都大学法学部・研修員, 1999. 4 より 2001. 3 東京大学東洋文化研究所研究機関研究員, 2001 年 4 月より東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・助手

#### 研究活動の概要

中国法制史と法社会学を専攻としている。従来あまり注目されてこなかった明代の法制を中心に研究を進めてきたが, 最近は秦漢時代にも目を向け, 将来的に

は帝制時代を通じた中国法の非法実証主義的な理解を目標としている。

過去の主要業績（2000.3まで）

「西洋社会理論に見られる『呪力剥奪の輪廻』の文化論的検討——中国との文化論的対話の再開を目指した法社会学の試み（1）（2）」『法学論叢』137-6  
139-2 1995/1996 67-84頁/85-111頁

「中国刑罰史における明代贖法——唐律的『贖刑』概念との比較」『東洋史研究』  
57-4 1999.3 104-147頁

「律と例の間——明代贖法を通じてみた旧中国法の一斑」『東文研紀要』138  
1999 1-65頁

「律と権宜——旧中国法の可変性と不変性」（横山俊夫等編『安定社会の総合研究』2000 52-65頁

過去2年間の研究業績

「法典編纂史再考——漢篇：再び文献史料を中心に据えて」『東文研紀要』140  
2000 1-57頁

「明清時代の罪名例——『情』と法的合理性」『東洋文化研究所紀要』141  
2001 47-124頁

「明代の審録——罪名例の伝統にみる朝審と秋審制度」『法制史研究』50 2001  
161-203頁

吉開 将人 よしかい まさと（2001.3任期満了）

略 歴

1967.7生。1990東大・文・考古学卒，1993東大大学院・人文科学・考古学・修士課程修了，同年同博士課程進学，同年，中国北京大学留学，1994帰国，1995東大大学院博士課程退学，同年東文研助手，1996香港大学CAS派遣，同年帰国，2000.3助手退職，2000.11東文研研究機関研究員，2001.3任期満了。

研究活動の概要

中国研究の一分野として歴史考古学を位置付けるという立場をとり，周辺世界との関わりのなかで「中国」という歴史世界の形成過程を明らかにすることを目指している。近年では，おもに広東からベトナムにかけての範囲を対象に，歴史考古学的な知見を出発点として，中越双方による歴史意識や空間認識など，歴史上の認識的な枠組みの変遷過程にも注目しながら，その「地域」としての生成のあり方について研究を進めている。

#### 過去の主要業績（2000.3まで）

「銅鼓『再編』の時代——千年紀のベトナム・南中国」『東洋文化』78  
1998.3 199～218頁

「印からみた南越世界——嶺南古璽印考」『東文研紀要』136・137・139 1998.  
12・1999.3・2000.3 89～135・1～46・1～38頁

ほか14点

#### 過去2年間の研究業績

『南越史の研究』東京大学博士学位論文 2001.3

「馬援銅柱をめぐる諸問題」『ベトナムの社会と文化』3 風響社 2001.12  
389～407頁

「近代中国とアカデミー——政治史と文化史のあいだ」『人文科学年報』32 専  
修大学人文科学研究所 2002.3 95～122頁

ほか2点

#### 教育活動

専修大学法学部（2000年度）、立教大学文学部（2000・2001年度）、学習院大  
学大学院（2001年度）、駒澤大学文学部（2001年度）

#### 学外活動

日本学術会議（考古学研連委員）、日本秦漢史学会（理事）、日本中国考古学会  
（幹事）、東南アジア考古学会（幹事）、史学会、中国出土資料学会、東南アジア  
史学会

## 東アジア部門（第二）

丘山 新 おかやま はじめ

#### 略 歴

1948.6生。1972京大・理・物理学卒。1976東大大学院人文・印哲・修士課程  
修了。1979財団法人東方研究会専任研究員，1980中国北京大学留学（～1982），  
1986日大文理学部専任講師，1990東文研助教授，1992.3ミュンヘン大学客員研  
究員（～1993.2）を経て，1994年より東文研教授。

#### 研究活動の概要

(1) 漢訳仏典の受容をとおして，中国仏教の特質を明らかにする。(2) 仏教思

想に基づいた他者論を宗教哲学理論として創生する。(3) 漢籍目録データベースを構築し、国際漢籍連合目録データベースの形成を目指す。

過去の主要業績 (2000.3 まで)

「漢訳仏典と漢字文化圏」『東アジア社会と仏教文化』春秋社 1996 223-239 頁

『現代語訳 阿含経典 I, II, III』(共訳) 平河出版 1995, 1997, 2000

「求道と超越」『入矢教授追悼記念論集』汲古書院 2000.3 431-434 頁

『祖堂集』牛頭法融章疏證』『東文研紀要』139 2000.3 39-83 頁

ほか 30 点

過去 2 年間の研究業績

「悟りと救われ」『聞法の喜び』下 真浄寺 2000.10 69-90 頁

「お釈迦さまは極楽浄土を知らなかった？」『アジアを知れば世界が見える』小学館 2001.11 104-115 頁

「大乘仏教における他者の発見」『印度学仏教学研究』50-2 2002.3 1-7 頁

ほか 4 点

本学以外での教育活動

二松学舎大学文学研究科 (2000・2001・2002 年度)

学外活動

日本印度学仏教学会、東西宗教交流学会、日仏東洋学会

橋本 秀美 はしもと ひでみ

略 歴

1966.7 生。1990 東大・文・中哲卒。1994 修士 (文学・東大)。1999 文学博士 (北京大)。1999 北京大学宗教研究所特別助理研究員, 2000 東文研助教授。

研究活動の概要

経学文献を校読している。主に『儀礼』関係の文献を読んでおり、『儀礼疏』・『儀礼正義』等の点校本を準備中。現在は、『礼書通故』の校正に従事している。

過去の主要業績 (2000.3 まで)

『清家論語抄初探』東京大学古籍整理学習小組 1994 総 75 頁

「日本古代論語学資料及其研究」『原学』第二輯 1995 353-380 頁

「礼是鄭学説」『経学研究論叢』第六輯 1999 113-118 頁

「儀礼単疏版本説」『文史』第五十輯 2000 27-44 頁



#### 過去2年間の研究業績

- 「書孝経述議復原研究後」『経学研究論叢』第八輯 2000 307-314頁  
『義疏学衰亡史論』白峰社 2001 総 289頁  
「経学文献学的課題」『孔学与二十一世紀国際學術研討会論文集』2001 462-472頁  
ほか論文3点

尾崎 文昭 おざき ふみあき

#### 略歴

1947.6生。1972 東大文・中文卒。1975 修士(中文・東大院)。1979 同博士課程退学。1979 東大文学部助手, 1980 中国・北京大学留学, 1983 帰国し退職, 1985 明治大学文学部専任講師・同助教授を経て, 1996年, 東文研教授。1980年9月から1983年7月まで北京大学中国語学文学系にて研修。1991年4月から1992年3月まで北京大学中国語学文学系にて在外研究。

#### 研究活動の概要

第一に、「五・四」退潮期(1920~25)を中心とする中国現代文学史研究を主テーマとし, 第二に, 同時期の魯迅・周作人兄弟の文学思想を分析してきた。特に近年は, 1980-90年代の思想文化また文学についても関心をはらってきた。

#### 過去の主要業績(2000.3まで)

- 「魯迅の『多疑』思惟方式についての試論」藤井省三ほか編『魯迅研究の現在』汲古書院 1992 73-94頁  
「周作人の新村提唱とその波紋(上/下)」『明治大学教養論集』207/237 1988/1991 119-136/67-85頁  
「『故郷』の二重性と『希望』の二重性—『故郷』を読む」『颯風』21 1988 1-22頁  
「陳独秀と別れるに至った周作人—1922年非基督教運動の中での衝突を中心に」『日本中国学会報』35 1983 232-244頁  
ほか13点

#### 過去2年間の研究業績

- 「上海『美人作家』登場の意味するもの」『アジアを知れば 世界が見える』小学館 2001 60-71頁  
「近代の小説」『中国思想文化事典』東京大学出版会 2002 464-466頁

「(書評) 魯迅日本留学百周年を記念するに足る新たな成果:『魯迅 日本という異文化のなかで』(北岡正子著, 関西大学出版部, 2001)」『東方』249  
2001.11 24-26頁

ほか2点

本学以外での教育活動

東京女子大学文理学部・現代文化学部(2000年度)

学外活動

中国社会文化学会(理事・編集担当), 日本中国学会

大木 康 おおき やすし(2002.4配置換着任)

略 歴

1959.1生。1981.3東大・文・中国文学卒。1983.4東大大学院人文・中国文学・修士課程修了。1984.9中国上海復旦大学に留学(1985.8まで)。1986.3東大大学院人文・博士課程単位取得退学。1986.4東文研助手, 1988.4広島大文学部講師, 1989.4同助教授, 1991.4東大文学部助教授, 1995.4同大学院人文社会系研究科助教授, 1998.9博士(文学)学位取得(東京大学)。1999.8Harvard-Yenching Institute Visiting Scholar(2000.8まで), 2001.4東大東洋文化研究所助教授(併任), 2002.4東大東洋文化研究所助教授。

研究活動の概要

中国明末江南地方における文化状況(文学を中心とする)について, 通俗文芸, 出版文化, 科挙制度と知識人, 妓女と知識人などの諸点から検討している。研究の重点は, 「明末通俗文学の旗手」馮夢龍とその周辺。

過去の主要業績(2000.3まで)

「馮夢龍『山歌』の研究」『東洋文化研究所紀要』105 1988 57-241頁

「明末江南における出版文化の研究」『広島大学文学部紀要』第50巻特輯号1  
1991 176頁

『明末のはぐれ知識人——馮夢龍と蘇州文化』講談社 1995 254頁

『不平の中国文学史』筑摩書房 1997 245頁

ほか23点

過去2年間の研究業績

「黄牡丹詩会——明末清初江南文人点描」『東方学』99 2000 33-46頁

『中国明清時代の文学』放送大学教育振興会 2001 197頁

『中国遊里空間——明清秦淮妓女の世界』青土社 2002 297頁

ほか10点

#### 本学以外での教育活動

早稲田大学政経学部(2000, 2001), 金沢大学文学部(2001)

#### 学外活動

中国社会文化学会(理事), 日本中国学会, 東方学会

小川 裕充 おがわ ひろみつ

#### 略 歴

1948.10生。1973東大教養卒。1977修士(文学・東大)。1979東文研助手、1982東北大学文学部助教授、1987東文研助教授、1992東文研教授。その間、ハイデルベルク大学客員教授、北京日本学研究中心客員教授を歴任。

#### 研究活動の概要

私的には、山水画における構成の伝承の問題など、古代中世東アジア絵画史を研究し、公的には、世界的な中国絵画写真資料の維持・拡大を計っており、『中国絵画総合図録 続編』刊行後、『三編』への調査を始めたところである。

#### 過去の主要研究業績(2000.3まで)

「院中の名画——董羽・巨然・燕肅から郭熙まで」『鈴木敬先生還暦記念 中国絵画史論集』吉川弘文館 1981年 25-85頁

「大仙院方丈襖絵考(上)(中)(下)」『国華』1120 13-30頁, 1121 33-49頁, 1122 9-19頁 1989年

“The Continuity of Spatial Composition in Sung and Yuan Landscape Painting.” in M. K. Hearn & J. G. Smith ed., *Arts of the Sung and Yuan*, New York: The Metropolitan Museum of Art, 1996 pp. 339-366.

『中国絵画総合図録 続編』(共編)全4巻, 第1巻: 368頁, 第2巻: 445頁, 第3巻: 371頁, 第4巻: 633頁, 東京大学出版会, 1998-2001

ほか40点

#### 過去2年間の研究業績

「北宋時代の神御殿と宋太祖・仁宗坐像について」『国華』1255 2000 17-29頁

「日本에서 의 中國繪畫史研究動向과 그 展望—宋元代를 中心으로」 「日本における中国絵画史研究の動向とその展望——宋元時代を中心に」『美術史論壇』

10 ソウル 韓国美術研究所 2000 11-69頁

「雪舟——東アジアの僧侶画家」『国華』1276 2002 33-41頁

ほか 35 点

論文 4 点, その他 31 点

#### 本学以外での教育活動

東北大学大学院文学研究科・文学部 (2001 年度)

#### 学外活動

美術史学会 (代表委員), 東方学会 (評議員・国際東方学会議運営委員), 美学会, 文化財保存修復学会, 密教図像学会。国華 (朝日新聞社) 編輯委員, 美術史研究集刊 (国立台湾大學藝術史研究所) 編輯委員

張 欣 ちょう きん (2002.3 任期満了)

#### 略 歴

1966.11 生。1988 北京大学・中国文学卒。1991 北京大学大学院・中国近代文学・修士課程修了。1991 北京大学東洋学学部助手, 1993 同退職, 1999 東京大学大学院・アジア文化研究・博士課程修了。2000 東文研研究機関研究員, 2002 同任期満了。

#### 研究活動の概要

中国の近代文学から海外の華人文学へと視野を広げ, 華人文学に反映されている, 多文化社会で生きる葛藤やアイデンティティの確立過程, またその社会の華人イメージの変遷などを中心に研究を進めている。

#### 過去の主要業績 (2000.3 まで)

「“中国新詩” 派詩論現代性探索」『中国現代文学研究叢刊』2 1992 139-158 頁

「占領下の北京文化人たち」『野草』56 1995 48-62 頁

「梅娘——異邦での文学修業」『しにか』3 1999 102-107 頁

「“濃い灰色の影” の下の “日本研究”」『東京大学中国語中国文学研究室紀要』2 1999 83-100 頁

#### 過去 2 年間の研究業績

「張我軍と “大東亜文学者大会”」『アジア遊学』13 2000 101-115 頁

「梅娘と “満州” 文壇」『東文研紀要』140 2000 415-452 頁

「梅娘と “淪陥時期” 北京文壇」『東文研紀要』141 2001 325-364 頁

## 本学以外の教育活動

武蔵大学（2000・2001年度）、文京女子短期大学（2000年度）

## 学外活動

東方学会、日本中国学会、AAS (ASSOCIATION FOR ASIAN STUDIES)

## 南アジア部門

加納 啓良 かのう ひろよし

### 略 歴

1948. 3 生。1970 東大経卒。1990 経済学博士（東大）。アジア経済研究所入所、1980 東文研助教授を経て、1991 年より同教授。

### 研究活動の概要

ジャワの農村地域を中心に、インドネシア経済の歴史と現状を、東南アジアの他の国々や日本などの場合と比較しつつ研究してきた。東京大学によるインドネシア大学日本研究センターへの支援事業のコーディネーターも務めている。

### 過去の主要業績（2000. 3 まで）

『バグララン——東部ジャワ農村の富と貧困』アジア経済研究所 1979  
xi+202 頁

『インドネシア農村経済論』勁草書房 1988 316 頁

『中部ジャワ農村の経済変容——チョマル郡の 85 年』（編著）東文研叢刊（東京大学出版会）1994 ix+478 頁

『東南アジア農村発展の主体と組織——近代日本との比較から』（編著）アジア経済研究所 1998 256 頁

ほか多数

### 過去 2 年間の研究業績

『インドネシア繚乱』文春新書 163 文藝春秋 2001 220 頁

*Beneath the Smoke of the Sugar Mill: Javanese Coastal Communities during the Twentieth Century* (Coedited with Frans Husken and Djoko Surjo)  
(Yogyakarta: AKATIGA and Gadjah Mada University Press, 2001, xxii+313 pp).

『岩波講座 東南アジア史 6 植民地経済の繁栄と凋落』（編著）岩波書店

2001 xi+341 pp.

ほか論文2点, その他10点

本学以外での教育活動

北海道大学法学部(2000年度)

学外活動

アジア政経学会(常務理事), 東南アジア史学会, 京都大学東南アジア研究センター学外研究協力者(2000.4~2002.3), 北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター研究員(2000.4~2002.3), 国際協力事業団「インドネシア・スラウェシ貧困対策支援村落開発計画」国内委員会委員(2000.4~2002.3), 国際協力事業団短期派遣専門家(インドネシア大学日本研究センターに係る技術指導)(2000.3~2000.4, 2001.1~2001.2, 2002.3), 日本インドネシアNGOネットワーク(副代表)

高橋 昭雄 たかはし あきお

略 歴

1957.4生。1981京大経卒。1993博士(経済学・京大)。1981アジア経済研究所入所, 1986ラングーン外国語学院留学(1988まで), 1993ミャンマー農業省農業計画局客員研究員(1995まで), 1996アジア経済研究所退職, 同年東文研助教授, 2002同教授。

研究活動の概要

ミャンマーの農村地域を中心に社会経済の歴史と現状に関する研究を行ってきた。現在は特に, 経済体制の転換と農村社会経済の変容との関係, およびその地域的差異について, 文献資料の分析と実態調査の二つの方向から研究を進めている。

過去の主要業績(2000.3まで)

『ビルマ・デルタの米作村:「社会主義」体制下の農村経済』(研究双書 423)

アジア経済研究所 1992 X+249頁

「ミャンマー——困難な市場経済化への移行」(原洋之介編『アジア経済論』

NTT出版 1999年1月) 295-323頁。

「ビルマにおける農地法制の展開と農民の「所有権」——農地国有化法とネーウィンの「農地制度革命」を中心に」(加納啓良編『東南アジアの農業発展の主体と組織——近代日本との比較から』アジア経済研究所 1998年12月)

29-60 頁

「ミャンマーにおける農村間世帯移動と職業階層」(『アジア経済』38-11  
1997.11) 2-24 頁

他

#### 過去2年間の研究業績

『現代ミャンマーの農村経済——移行経済下の農民と非農民』東京大学出版会  
2000.12 v+339 頁

「ミャンマーの国営製糖業と耕作農民」(『東洋文化』82 2002) 137-163 頁

「ビルマ軍による「開発」の停滞」(『講座東南アジア史IX』岩波書店 2002)  
701-726 頁

他4点

#### 本学以外での教育活動

東京外国語大学外国語学部(2000・2001・2002年度)

#### 学外活動

アジア政経学会, 東南アジア史学会

柳澤 悠 やなぎさわ はるか

#### 略 歴

1944.11 生。1967 東大・経卒。1970 東大大学院経済・応用経済学専攻・修士  
課程修了(経済学修士)。1972 同博士課程退学, 1993 博士(経済学)。1972 年横  
浜市立大学文理学部専任講師, 同助教授, 1983 年東京大学東洋文化研究所助教  
授, 1989 年より同教授。1976 年に在外研究(英国)。

#### 研究活動の概要

19・20 世紀南インドの農村構造の歴史的変動を農業労働者など下層民に焦点  
を当てて分析してきた。手織物業など農村・都市の小工業についても考察してき  
た。現在は, インドの環境, 特に村落共有地の変動を分析している。

#### 過去の主要業績(2000.3 まで)

*Socio-economic Changes in a Village in the Paddy Cultivating Area in South India*  
(Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Af-  
rica (ILCAA), 1985, 321 pp.)

『南インド社会経済史研究』東文研報告 東京大学出版会 1991 405 頁

*A Century of Change: Caste and Irrigated Lands in Tamilnadu, 1860s to 1970s*

(New Delhi: Manohar, 1996, xii+323pp.)

“The Handloom Industry and Its Market Structure: The Case of the Madras Presidency in the First Half of the Twentieth Century,” *Indian Economic and Social History Review* 30-1 (1993): 1-25 頁

ほか 73 点

#### 過去 2 年間の研究業績

「1930 年代の英印関係とインド工業化の一側面」秋田茂・籠谷直人編『1930 年代のアジア国際秩序』溪水社 2000 237-259 頁

「インドの環境問題の研究状況」長崎暢子編『現代南アジア 1 地域研究への招待』東京大学出版会 2002 年刊行予定

「村落共同利用地の減少と村落社会の変容」柳澤 悠編『現代南アジア 4 開発と環境』東京大学出版会 2002 年刊行予定

その他 7 点

#### 本学以外での教育活動

横浜国立大学人間教育学部 (2000, 2001 年度)

#### 学外活動

日本南アジア学会, 国際経済学会, 土地制度史学会, アジア政経学会, 社会経済史学会, 歴史学研究会, 東方学会

中里 成章 なかざと なりあき

#### 略 歴

1946. 12 生。1972 東大・文・東洋史卒。1975 東大院・人文・東洋史学・修士修了 (文学修士)。1987 Ph. D. (カルカッタ大)。1977 東文研助手, 1987 (財) 東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター調査資料室長, 1988 神戸大学文学部助教授, 1994 東文研教授, 1999 東文研附属東洋学研究情報センター教授・主任, 2002 東文研教授。1993 ロンドン大学 SOAS 客員研究員。

#### 研究活動の概要

植民地支配期インドの社会経済史, とくにベンガル地方の農村史を中心に研究を行ってきた。現在は, インド・パキスタン分離独立の背景の分析や, 南アジアにおける公共圏の形成の問題に関心をもっている。

#### 過去の主要業績 (2000 年 3 月まで)

*Agrarian System in Eastern Bengal c. 1870-1910* (Calcutta: K. P. Bagchi, 1994)



xix+337 p.

"Regional Pattern of Land Transfer in Late Colonial Bengal," in *Local Agrarian Societies in Colonial India*, eds. Peter Robb et al. (London: Curzon, 1996), 250-279.

『世界の歴史 14 ムガル帝国から英領インドへ』中央公論社 1998 共著  
(分担: 205-413 頁)

「インドの植民地化問題・再考」『岩波講座世界歴史 23 アジアとヨーロッパ  
(1900年代—20年代)』岩波書店 1999 155-179 頁

#### 過去2年間の研究業績

Co-edited with Mushirul Hasan, *The Unfinished Agenda: Nation-building in South Asia* (New Delhi: Manohar Publishers, 2001), 536 p.

"The Transfer of Economic Power in India: Indian Big Business, the British Raj and Development Planning, 1930-1948," in the above book, 247-307.

『「拒絶作戦」の話——日本軍の南進とインド』東京大学東洋文化研究所編『アジアを知られば世界が見える』小学館 266-277 頁

ほか5点

編著1点, 辞典編集協力1点, ほか4点

#### 本学以外での教育活動

東京女子大学文理学部 (2000年度), 中央大学総合政策学部 (2002年度)

#### 学外活動

日本南アジア学会, 史学会 (評議員), 社会経済史学会, Indian History Congress (Life Member), Asiatic Society of Bangladesh (Life Member), 国立民族学博物館共同研究員 (2000.4-現在), 国立民族学博物館地域研究企画交流センター客員教授 (2001.4-現在)

上村 勝彦 かみむら かつひこ

#### 略 歴

1944.3生。1967 東大文卒。1970 東大大学院人文修士課程修了。1988 博士 (文学・東大)。1971 東大文学部助手 (1973まで), 1973 東方研究会研究員 (1978まで), 1978 國學院大学講師, 1980 同助教授 (1986まで), 1986 東文研助教授, 1989 同教授。

#### 研究活動の概要

1999年に、10世紀のカシミールの詩論家アーナンダヴァルダナの『ドゥヴァニ・アーローカ』に関する研究論文『インド古典詩論研究』を発表した。目下、大叙事詩『マハーバーラタ』の翻訳を出版中である。同時に、サンスクリット詩論の研究も続行している。

#### 過去の主要業績（2000.3まで）

『カウティリヤ実利論』（訳）（上下）岩波文庫 1984 909頁

『インド古典演劇論における美的経験——アビナヴァグブタの *rasa* 論』東文研報告（東大出版会）1990 528頁

『バガヴァッド・ギーター』（訳）岩波文庫 1992 270頁

『インド古典詩論研究——アーナンダヴァルダナの *dhvani* 理論』東文研報告（東大出版会）1999 631頁

ほか多数

#### 過去2年間の研究業績

「ラージャシェーカラと *riti*」『加藤純章博士還暦記念論集』春秋社 2000 pp. 485-498

“A contradiction made by Ānandavardhana” *Journal of Oriental Research*, LXVIII-LXX, Madras, 2000, pp. 53-68.

『原典訳マハーバーラタ』第1～6巻 筑摩書房 2002 453頁 456頁 524頁 603頁 565頁 567頁

ほか13点

#### 本学以外での教育活動

東洋大学文学部（1998・99・2000・01・02年度）、川村学園女子大学文学部（1999・2000・01・02年度）

#### 学外活動

日本印度学仏教学会（評議員）、日本仏教学会、東方学会（評議員）、日本南アジア学会（理事）、仏教思想学会（評議員）、インド思想史学会（理事）、財団法人東方研究会（評議員）、東京大学仏教青年会（理事長）

永ノ尾 信悟 えいのお じんご

#### 略歴

1948.7生。1971京大文卒。1986 PhD（マールブルク大）。1980九州東海大学

講師（1984まで）、1984 国立民族学博物館助手、1987. 12 国立民族学博物館助教授、1991 東文研助教授、1994 同教授。

#### 研究活動の概要

ヒンドゥー儀礼の形成と展開に関して、ヴェーダ後期文献からブラーナ文献、タントラ文献を中心に研究。また、北インドの農村の農事格言や低カーストの儀礼の歌の採集と分析を行う。

#### 過去の主要業績（2000.3 まで）

*Die Cāturmāsya oder die altindischen Tertialopfer. Dargestellt nach den Vorschriften der Brāhmaṇas und der Śrautasūtras* (Tokyo: Institute for the Study of Languages and Culture of Asia and Africa, 1988, xxii+383 pp.).

“The Nāgapañcamī as Described in the Purāṇas and its Treatment in the Dharma-nibandhas,” *Journal of the Japanese Association for South Asian Studies*, no. 6 (1994): pp. 1-29.

“The Formation of the Pūjā Ceremony,” *Studien zur Indologie und Iranistik* 20 (1996): pp. 73-87.

“The Autumn Goddess Festival: Described in the Purāṇas,” in *Living with Śakti: Gender, Sexuality and Religion in South Asia*, eds. Masakazu Tanaka and Musashi Tachikawa (*Senri Ethnological Studies*, no. 50, Osaka: National Museum of Ethnology, 1999), 33-70.

ほか 21 点

#### 過去 2 年間の研究業績

「儀礼と宗教——王権儀礼としてのヒンドゥー年中行事」濱下武志、川北稔編『地域の世界史 11: 支配の地域史』山川出版社 2000 14-45, 001-002.

「第五章 自然を統べる神々」松井健編『自然観の人類学』榕樹書林 2000, 131-158.

“Is the Sārasvatasattra the Vedic Pilgrimage?” 『江島恵教博士追悼記念論集 空と実在』春秋社 2000 607-622 頁

ほか 4 点

#### 本学以外での教育活動

中央大学（2000, 2001, 2002 年度）、東京外国語大学（2000, 2001, 2002 年度）、大阪大学（2001 年度）

#### 学外活動

日本印度・仏教学会、日本民族学会、日本南アジア学会（理事）、東方学会

片岡 啓 かたおか けい (2001.4 採用)

#### 略 歴

1969.5 生。1992 東大・文卒。1995 東大大学院人文科学・修士課程修了。2001 東大大学院人文社会系・博士課程修了，博士（文学）。1995 文部省アジア派遣留学制度により南インド留学（1997 まで），1998 Michael Coulson Research Fellow (Wolfson College, Oxford)，1999 日本学術振興会特別研究員（2001 まで），2001 東文研助手。

#### 研究活動の概要

古典インドの哲学文献，特に，聖典解釈学（ミーマーンサー）を中心に研究。インド内外のサンスクリット写本資料調査，批判校訂，思想史研究に従事。現在はクマーリラ（AD 600-650）を中心に研究を続けている。

#### 過去の主要業績（2000.3 まで）

「ナラセル」の解釈学——『シャバラ注』における bhava, kriya, bhavana,

『インド哲学仏教学研究』3 1995 47-60 頁

未知対象想定的一般形式と新得力想定への適用——Sabarabhasya における

arthapatti と apurva, 『仏教文化研究論集』2 1998 28-57 頁

arthapatti における virodha, 『仏教文化研究論集』3 1999 47-67 頁

The Mimamsa Concept of Samskara and the Samskara in the Process of

Cognizing a Word-meaning——purva-varna-janita-samskara 『南アジア研究』11 1999 1-24 頁

他論文 3 点

#### 過去 2 年間の研究業績

Reconstructing the Dharma-abhivyaṅgi-vāda in the Mimamsa Tradition. The Way to Liberation: *Indological Studies in Japan*. Vol. I. Ed. Sengaku Mayeda. Delhi: Manohar, 2000, 167-181 頁

Scripture, Men and Heaven: Causal Structure in Kumarila's Action-theory of Bhavana. 『印度学仏教学研究』49-2 2001 1031-1028 頁

「インド聖典解釈学の法源論——知覚と聖典の住み分け」『仏教文化研究論集』5 2001 26-50 頁

ほか論文 2 点

#### 学外活動

日本印度学仏教学会，日本南アジア学会，東方学会，インド思想史学会

柴崎 麻穂 しばざき まほ (2001.3 任期満了)

#### 略 歴

1965.7 生。1989 法政大学卒。1994 東大大学院人文科学研究科修士課程修了。  
2000.10 東大大学院人文社会系研究科博士課程単位取得修了。1995 東大大学院人文社会系研究科ティーチング・アシスタント (1997 まで), 2000.11 東文研研究機関研究員 (2001.3 まで), 2001.4 財団法人東方研究会研究員 (現在に至る)。

#### 研究活動の内容

インド説話研究。特に古代インド説話集成『ブリハット・カター』の伝承研究。現在は、『ブリハット・カター』諸伝本に取り入れられた、施身を主題とする「ジームタヴァーハナ物語」の伝承過程について、博士論文を執筆中。

#### 過去の主要業績 (2002.3 まで)

「*Vāsuki Purāṇa* の *Jīmūtavāhana* 物語」『印度学仏教学研究』XLIV. No. 2

1996 929-931 頁

「*Haracaritacintāmaṇi* と *Jīmūtavāhana* 物語」『印度学仏教学研究』XLV. No. 2

1997.3 42-45 (L) 頁

「*Haracaritacintāmaṇi* の *Guṇāḍhya* 伝説」『印度学仏教学研究』XLVI. No. 2

1998.3 51-54 (L) 頁

「*Bṛhatkathā* 起源譚と七人のヴィディヤータラ転輪王」『南アジア研究』10

1998.10 74-91 頁

ほか 5 点

#### 過去 2 年間の研究業績

篠田一士他編『世界文学事典』集英社 2002

#### 学外活動

日本印度学仏教学会, 日本南アジア学会

大石 高志 おおいし たかし (2002.3 任期満了)

#### 略 歴

1966.7 生。1989 東大・教養・教養卒。1992 年東大大学院総合文化・地域文化修士課程修了。1997 同博士課程修了満期退学, 1992-96 ジャワハルラール・ネルー大学社会科学部歴史学科博士課程, 1997 日本学術振興会特別研究員 PD, 2000 東文研非常勤講師, 2001 東文研研究機関研究員, 2002 同任期満了。

#### 研究活動の概要

南アジア近現代史においてムスリムが関わった政治や思想の問題を研究することから始めて、現在は、それらの問題の検証・考察に、社会や経済の要素を包摂するような意識を強めている。とくに、最近の研究対象にしているのは、環インド洋地域や東・東南アジア地域に通商ネットワークを維持していたムスリムの商人層と彼等の関わった政治・社会の諸問題である。

#### 過去の主要業績（2000.3まで）

“An Enquiry into the Structure of Pan-Islamism in India: The Phase of Italo-Turkish and Balkan Wars, 1911-1913,” *Journal of the Japanese Association for South Asian Studies*, no. 8 (1996) pp. 58-89.

「オスマン朝支援運動とインド民族運動の整合と相反：ムハンマド・アリーを焦点として」『歴史評論』585（南・東南アジア史特集号）1999 46-59頁  
（編著）『南アジア系移民——年表および時期区分』文部省特定領域研究「南アジアの構造変動とネットワーク」ディスカッション・ペーパー4 1999 255頁

“Muslim Merchant Capital and the Relief Movement for the Ottoman Empire in India, 1876-1924,” *Journal of the Japanese Association for South Asian Studies*, no. 11 (1999) pp. 71-103.

ほか13点

#### 過去2年間の主要業績

「南アフリカにおける経済自由化とマイノリティ・ビジネスマン——インド・ムスリム系衣料製造販売業者の事例を中心に」南楚・関口・澤編『越境するインド系コミュニティ——ホスト社会とのかかわり』文部省特定領域研究「南アジアの構造変動とネットワーク」ディスカッション・ペーパー13 2001 43-58頁

「インドと環インド洋世界——1990年代以後の経済優先主義的展開とその歴史的な前提」『国際政治』127 日本国際政治学会 2001 111-131頁

「日印合弁・提携マッチ工場の成立と展開 1910～20年代—ベンガル湾地域の市場とムスリム商人ネットワーク」『東洋文化』82号 特集“環ベンガル湾世界の諸相” 2002 77-136

ほか5点

#### 本学以外での教育活動

横浜市立大学国際文化学部（2000・2001年度）、横浜国立大学教育人間学部（2000・2001年度）、東海大学教養学部（2000・2001年度）

## 学外活動

日本南アジア学会、日本イスラム協会、社会経済史学会、日本国際政治学会、歴史学研究会、東京外国語大学・AA 研共同研究員（2000.4～2002.3）、（財）日本国際問題研究所委託研究員（2000.4～2001.3）

久米 高史 くめ たかし（2002.4 採用）

## 略 歴

1967.10 生。1993 早稲田大学・政治経済学部・経済学科卒、2000 東京大学大学院経済学研究科・博士課程単位取得満期退学。1998 より国際日本文化研究センター・共同研究員、1999-2002.3 まで国立民族学博物館・地域研究企画交流センター・共同研究員を経て、2002.4 東文研研究機関研究員。

## 研究活動の概要

19 世紀後半から 20 世紀前半の日本経済史を、「アジア間競争」の観点から研究してきた。大学院時代は、主に日本の綿織物業を研究していたが、現在及び今後は、日本を含めたアジア全体の糖業と、糖業をめぐるアジア間競争の実態を明らかにすることを研究の中心課題としている。

## 過去の主要業績（2000.3 まで）

### 〔翻訳〕

ルイ・M・カレン「英国議会資料」と日本（国立民族学博物館・地域研究企画交流センター『地域研究論集』Vol.3 No.1 2000.3 所収）17～24 頁

ピーター・マサイアス「英国議会資料」の概観（国立民族学博物館・地域研究企画交流センター『地域研究論集』Vol.3 No.1 2000.3 所収）7～15 頁

『横浜市史Ⅱ・資料編5・戦時・戦後の労働運動』（第4章「リチャード・デベラル調査報告」1995.3）405～562 頁

## 過去2年間の研究業績

「幕末維新期の『外庄』と和泉木綿」国際日本文化研究センター紀要『日本研究』第25集 2002.3 223～239 頁

「海洋アジアと日本——木綿と砂糖を事例に」川勝平太編『グローバル・ヒストリーに向けて』藤原書店 2002.2 212～218 頁

## 学外活動

国際日本文化研究センター・共同研究員（2002 年度）、社会経済史学会、土地制度史学会

## 西アジア部門

鈴木 董 すずき ただし

### 略 歴

1947.9 生。1970 東大・法卒。1972 東大大学院法学・政治・修士課程修了。同年トルコ国・イスタンブル大学留学（1975 まで）、1979 東大大学院博士課程退学、同年学術振興会奨励研究員、1980 立大法学部助手、1982 同退職、同年千葉大学教養部等非常勤講師、同年東大大学院法学・政治・博士課程修了、法学博士（東大）。1983 東文研助教授、1991 同教授。

### 研究活動の概要

研究対象は、西アジア地域であり、オスマン帝国を中心に、イスラム世界における、1) 政治体の支配組織と支配エリート、2) 世界秩序・政治的統合・アイデンティティー、3) 文化と社会の特質、の3分野にわたる。

### 過去の主要業績（2000.3 まで）

『オスマン帝国とイスラム世界』東京大学出版会 1997 vii+240 頁

『オスマン帝国の権力とエリート』東京大学出版会 1993 xiii+260 頁

『イスラムの家からバベルの塔へ——オスマン帝国における諸民族の統合と共存』リプロポート 1993 255 頁

「スレイマン大帝時代オスマン朝の大宰相と宰相たち（1）～（3）」『東文研紀要』101 1-71 頁、103 1-79 頁、106 35-94 頁 1986-88

### 過去2年間の研究業績

『オスマン帝国の解体——文化世界と国民国家』筑摩書房 2000 238 頁

『暮らしがわかるアジア読本——トルコ』（編著）河出書房新社 2000 294 頁  
ほか10数点

### 本学以外での教育活動

慶応義塾大学大学院文学研究科（2000・01 年度）、慶応義塾大学文学部（2000・2001 年度）、慶応義塾大学法学部（2000・20001 年度）、横浜市立大学大学院国際文化研究科（2000・20001 年度）

### 学外活動

国際日本文化研究センター共同研究員、東京外国語大学アジア・アフリカ研究



所共同研究員，国立民族学博物館共同研究員，『史学雑誌』編集委員，地中海学会事務局長，日本オリエント学会（常務理事，『オリエント』編集委員），法制史学会編集委員，日本中東学会評議員，日本国際政治学会評議員

羽田 正 はねだ まさし

#### 略 歴

1953.7 生。1976 京大・文・史学卒。1978 京大大学院文学・東洋史・修士課程修了。1983 イラン学第3期博士（パリ第3大）。1984 学術振興会奨励研究員，1985 学術振興会特別研究員，1986 京都橋女子大学文学部助教授，1989 東文研助教授，1996 ケンブリッジ大学東洋学部客員研究員，1997 東文研教授。

#### 研究活動の概要

ペルシア語史料と欧文文書史料（東インド会社文書など）を用いた歴史的イラン世界の政治史，制度史，都市史研究。イスラム建築史の研究。欧文ペルシア旅行記研究や環インド洋世界史研究。

#### 過去の主要業績（2000.3 まで）

*Islamic Urban Studies: Historical Review and Perspectives* (co-editor), London: Kegan Paul International Ltd., 1994, pp. 365.

『モスクが語るイスラム史：建築と政治権力』中央公論社 1994 251頁

『シャルダン『イスファハーン誌』研究——17世紀イスラム圏都市の肖像』東文研叢刊 東京大学出版会 1996 415頁

『勲爵士シャルダンの生涯——十七世紀のヨーロッパとイスラーム世界』中央公論新社 1999 313頁

ほか多数

#### 過去2年間の研究業績

『サファヴィー朝とイスファハーンの栄光』『アジアの歴史と文化9 西アジア史』（間野英二責任編集）同朋舎 2000 144-156頁

『バンダレ・アッパーズとペルシア湾海域世界』『歴史学研究』757(2001) 1-12頁

『岩波イスラーム辞典』（大塚和夫ら5名と共編）岩波書店 2002 1247頁  
うち執筆項目84点

ほか1点

#### 本学以外の教育活動

学習院大学文学部（2000・2001年度）、慶応義塾大学文学部（2000年度）、早稲田大学文学部（2000年度）、大阪外国語大学（2000年度）、熊本大学文学部（2001年度）、九州大学大学院人文科学研究院（2001年度）

#### 学外活動

日本中東学会（理事）、日本イスラム協会（評議員）、日本オリエント学会、史学会、東洋史研究会、西南アジア研究会、内陸アジア史学会（常務理事）、日仏東洋学会（評議員）、Society for Iranian Studies（Editorial Board）、Société asiatique、Association pour l'avancement des études iraniennes、東京外国語大学・AA 研共同研究員、国立民族学博物館共同研究員

榎屋 友子 ますや ともこ

#### 略 歴

1961.9 生。1986 東大・文・美術史卒。1989 ニューヨーク大学大学院・美術史・修士課程修了、1990 東大大学院・人文・美術史修了。1997 ニューヨーク大学大学院・美術史・Ph. D. 取得。1992-94 メトロポリタン美術館イスラーム部ハゴップ・ケヴォルキアン学芸研究員、1997-99 国立民族学博物館第2研究部（のち博物館民族学研究部）助手、1999 東文研助教授。

#### 研究活動の概要

西アジア、中央アジア、北アフリカにおけるイスラーム時代の美術史を、物質資料及び文字資料に基づいて研究・調査を行っている。特に13～14世紀のモンゴル時代における文化の東西交流に関心を持つ。

#### 過去の主要業績（2000.3 まで）

With Stefano Carboni, *Persian Tiles* (New York: The Metropolitan Museum of Art, 1993, 46 pp.).

"The Condition of The Metropolitan Museum of Art's Small Shahnama and the Reconstruction of Its Text," in *Illustrated Poetry and Epic Images: Persian Painting of the 1330s and 1340s*, by Marie Lukens Swietochowski and Stefano Carboni (New York: The Metropolitan Museum of Art, 1994), 129-145.

"*The Ilkhanid Phase of Takht-i Sulaiman*," Ph. D. dissertation (New York University, Graduate School of Arts and Science, Institute of Fine Arts, 1997,

lii+789 pp.)

「第2章 スペインとマグリブ」「第7章 サファヴィー朝とガージャール朝」  
「作品解説」杉村棟編『世界美術大全集 東洋編 第17巻 イスラーム』小  
学館 1999 (73-84, 221-232, 362-371, 391-394, 403-410, 418, 424-425,  
428-431, 437-438)

ほか9点

#### 過去2年間の研究業績

“Persian Tiles on European Walls—Collecting Ilkhanid Tiles in Nineteenth-  
Century Europe,” *Ars Orientalis* XXX (2000): 39-54.

翻訳: J・ブルーム/S・ブレア著『イスラーム美術』, 岩波書店, 2001 447頁

ほか8点

#### 学外活動

日本中東学会, 日本オリエント学会 (編集委員), 日本美術史学会, College  
Art Association, Historians of Islamic Art, Society for Iranian Studies, Middle  
East Studies Association, 国立民族学博物館共同研究員

後藤 明 ごとう あきら (2002.3 任期満了退職)

#### 略 歴

1941.7 生。1965 東大・文・東洋史卒。1967 東大大学院人文・東洋史・修士課  
程修了。1967 (財) 東洋文庫研究生, 1968 (財) 東洋文庫附置ユネスコ東アジア  
文化研究センター研究員, 1978 山形大学人文学部助教授, 1986 同教授を経て,  
1987 東文研教授 (2002.3 まで), 1994 東文研所長及び東大評議員並びに東洋学  
文献センター長を併任 (1996 まで), 2002.5 東京大学名誉教授。

#### 研究活動の概要

イスラーム世界の歴史の展開を, 地球規模の人類史のなかに位置づける作業を  
継続しておこなっている。また, イスラーム世界史の最初期の実証的研究を継続  
している。その一環としてイブン・ヒシャーム編『預言者伝』の翻訳を, 共同作  
業としておこなっている。

#### 過去の主要業績 (2000.3 まで)

『ムハンマドとアラブ』東京新聞出版局 1979 232頁

『メッカ——イスラームの都市社会』中央公論社 1991 197頁

『事典 イスラームの都市性』(共編) 亜紀書房 1992 768頁

『イスラーム世界史』放送大学教育振興会 1997 150頁

過去2年間の研究業績

編書『文化摩擦に見みるイスラム世界の虚像と実像』総合開発研究機構 2001  
163頁

『イスラーム歴史物語』講談社 2001 338頁

「現代に生きる預言者ムハンマド」東京大学東洋文化研究所編『アジアを知れば世界が見える』小学館 2001

ほか若干

本学以外での教育活動

東洋大学文学部(2000・01年度), 放送大学(2000・01年度)

学外活動

(社)日本イスラム協会(理事長), (社)日本オリエント学会(理事), (社)中東調査会(理事), 日本中東学会(理事), 国立民族学博物館地域研究企画交流センター運営委員, (財)東洋文庫兼任研究員, その他若干

鎌田 繁 かまた しげる

略 歴

1951.3生。1974東大文卒。1976修士(文学・東大)。1977マッギル大学イスラーム学研究所留学(1982まで), 1982東大文助手(1984まで), 1984東文研助教授, 1989日本学術振興会カイロ研究センター派遣(1990まで), 1995東文研教授, 2000ハーヴァード大学近東言語文明学科客員研究員(2001まで)。

研究活動の概要

イスラームの神秘思想を中心に研究を行ってきた。シーア派の神秘思想(イルファーン)の世界観・人間(靈魂)観を, 文献資料に基づいて考察している。とくにクルアーン解釈の問題にそれがどのような関わっているかに関心をもつ。

過去の主要業績(2000.3まで)

『モッラー・サドラーの靈魂論——『真知をもつ者たちの靈葉』校訂・訳注並びに序説』イスラム思想研究会 1984 278pp.

“The First Being: Intellect (*'aql/khiradh*) as the Link between God's Command and Creation according to Abū Ya'qūb al-Sijistāni,”『東文研紀要』106(1988) 1-33

「神秘主義とシーア・イマーム論の出会い——ファイド・カーシャーニーの完

全人間論』『超越と神秘——中国・インド・イスラームの思想世界』鎌田繁・森秀樹編，大明堂 1994 291-310

「不可知界への参入——モッラー・サドラーの聖典解釈論」『聖典と人間』市川裕・鎌田繁編，大明堂 1998 206-223 頁

ほか 89 点

#### 過去 2 年間の研究業績

「注釈の革新——モッラー・サドラーのクルアーン注解」『文学』1-4 (2000 年 7/8 月号) 岩波書店 49-66 頁

「万華鏡としてのクルアーン」『アジアを知れば 世界が見える』(東京大学東洋文化研究所創立六十周年記念) 小学館 2001

「シーア派」など『岩波イスラーム辞典』岩波書店 2002

ほか 2 点

論文 5 点，その他 6 点

#### 本学以外での教育活動

信州大学教育システム研究開発センター (2000 年度)，東京外国語大学外国語学部 (2000, 2001, 2002 年度)，滋賀大学経済学部 (2001 年度)

#### 学外活動

日本オリエント学会 (理事・『オリエント』編集委員長 (委員長は 2000.6 まで))，日本宗教学会 (評議員・理事 (理事は 2001.9 より))，日本イスラーム協会 (評議員)，宝積比較宗教・文化研究所 (理事)，宗教史学研究所，国立民族学博物館共同研究員 (2002.3 まで)

森本 一夫 もりもと かずお (2001.3 昇任転出)

#### 略 歴

1970.3 生。1992 東京大学・文・東洋史卒。1995 東大大学院人文・東洋史・修士課程修了。1996 東大大学院人文社会・アジア文化研究・博士課程中退，1996-2001 東文研助手，2001 北海道大学大学院文・歴史地域文化助教授。1996-1998 イラン，テヘラン大学人文学部史学科および歴史専門図書館 (ゴム市) で在外研究。

#### 研究活動の概要

イスラーム諸社会におけるサイイド・シャリーフ (預言者ムハンマドの一族) に関する比較史的研究を志向している。現在は特にイランに重点をおき，彼らの

系譜文献を分析している。

過去の主要業績 (2000.3 まで)

「サイド系譜文献——新史料類型の紹介」『アジア・アフリカ歴史社会研究』  
創刊号 1996 67-80 頁

“Shiklgiri-i ‘ilm-i ansāb-i Āl-i Abī Ṭālib dar qurūn-i chahārum wa panjum-i  
hijri,” *Majallah-i Dānishkadah-i Adabiyāt wa ‘Ulūm-i Insāni-i Dānishgāh-i  
Mashhad* 29-3/4, 1375Kh. pp. 261-296.

“The Formation and Development of the Science of Talibid Genealogies in  
the 10th & 11th Century Middle East,” *Oriente Moderno* n. s. 18-2 (1999):  
541-570.

「サイドとシャリーフームハンマドの一族とその血統」『岩波講座世界歴史第  
10 巻 イスラーム世界の発展』岩波書店 1999 293-315 頁

他3点

過去2年間の研究業績

“A Preliminary Study on the Diffusion of the *Niqāba al-Ṭālibīyīn*: Toward  
an Understanding of the Early Dispersal of *Sayyids*.” in *The Influence of Hu-  
man Mobility*, ed. Hidemitsu Kuroki (London: Kegan Paul International,  
forthcoming).

「サイド樹系図用語集の研究—専門用語・記号の意味とその論理」『歴史学研  
究』743号 2000年 2-12, 76 頁

「回顧と展望 西アジア・北アフリカ (イスラム時代)」『史学雑誌』, 110号,  
2001年 316-320 頁

他1点

論文2点, その他2点

本学以外での教育活動

共愛学園前橋国際大学(2000, 2001年度), 北海道大学大学院文学研究科, 文学  
部 (2001年度),

学外活動

史学会, 日本中東学会, 日本イスラム協会, オリエント学会 (2001.5~), 国  
立民族学博物館共同研究員

## 国際学術交流室

関守 ゲイノー せきもり けいの (2001.11採用)

### 略 歴

1947.6生。1969 オーストラリア国立大学卒 (東洋学, 日本学専門)。1990 修士 (上智大学)。2000 博士 (ケンブリッジ大学)。2000-2001 ロンドン大学 (SOAS) 日本宗教研究センター研究員 (Fellow), 2001.11 東文研助教授。

### 研究の概要

日本宗教史, 日本思想史。明治政府宗教政策, 特に, 神仏分離令。修験道史, 特に, 政治, 経済の面。修験道儀礼, 特に, 十界修行と羽黒修験道の秋峰。

### 過去の主要業績 (2000.3まで)

“The Reality Behind Musui Dokugen; the World of the Hatamoto and the Gokenin,” *Journal of Japanese Studies*, 16:2 (1990). With Kate Wildman Nakai.

“The Akinomine of Haguro Shugendo, an Historical Perspective,” *Transactions of the International Conference of Eastern Studies*, 1995.

翻訳 *Shapers of Japanese Buddhism 1994; Islamic Urban Studies 1994; Essentials of Buddhism 1996; Buddhist Cosmology 1997.*

編集 *A Century of Change: Caste and Irrigated Lands in Tamilnadu 1860s-1970s*, 1996;

### 過去2年間の業績

翻訳 *Gotama Buddha 2000; A History of Japanese Religion 2001.*

編集 *Slave Elites in the Middle East and Africa, 2000; The Concept of Territory in Islamic Law and Thought*, 2000.

“Shugendo, The State of Field,” *Monumenta Nipponica* 57, 2 (Summer 2002): 207-227.

### 学外活動

2000.10 CSJR Seminar: “Haguro Shugendo and shinbutsu bunri”, 2001.1 Seminar of Religion and Gender, SOAS: “Female Exclusion”, 2001.4 British Association for Japanese Studies: “Who Founded Haguro Shugendo: Uses and

Abuses of a Founder Legend.", 2001.9 British Association for the Study of Religions : "Imposing Religious Reformation", 2001.9 CSJR Symposium, SOAS. "Death and Rebirth in the Mountain."



## 附属東洋学研究情報センター

長澤 榮治      ながさわ えいじ

### 略 歴

1953.4 生。東大・経卒。1976 アジア経済研究所入所，1981 エジプト派遣（1983 まで），1995 アジア経済研究所退職，同年東文研助教授，1998 同教授，日本学術振興会カイロ研究連絡センター長（1998.4-99.3），2002 附属東洋学研究情報センター主任。

### 研究活動の概要

エジプトを中心に現代アラブの地域研究に取り組んでいる。これまでの主な研究テーマは，エジプトの綿花経済と農業労働，労働移動，灌漑制度，農村の権力構造，農業資本主義論争，現代アラブ知識人と民衆的遺産などである。

### 過去の主要業績（2000.3 まで）

『東アラブ社会変容の構図』（編著）アジア経済研究所 1990 377 頁

『中東 政治・社会』（地域研究シリーズ第 10 巻）（編著）アジア経済研究所  
1991 282 頁

『現代アラブ思想研究のための覚書——思想的危機と第 2 のナフダ』伊能武次  
編『中東諸国における政治経済変動の諸相』アジア経済研究所 1993 3-  
45 頁

『エジプト——灌漑制度改革の新段階』堀井健三・篠田隆・多田博一編『アジ  
アの灌漑制度——水利用の効率化に向けて』新評論 1996 419-459 頁

ほか多数

### 過去 2 年間の研究業績

『アタバの娘事件を読む 現代エジプト社会における性の象徴性』『地域研究論  
集』3-2 2000.12 [37-62 頁]

『アラブ主義の現在』木村靖二・長沢榮治編『地域への展望』（地域の世界史  
12）山川書店 2000 [14-52 頁]

“The Development of Etatism and ‘National Bourgeoisie’ in Egypt”, in  
Akira Usuki ed., *State Formation and Ethnic Relations in the Middle East*,  
The Japan Center for Area Studies, 2001 pp.219-235.

ほか3点

論文6点、その他2点

#### 学外活動

日本中東学会（理事）、日本イスラム協会、日本オリエント学会、国立民族学博物館共同研究員

板倉 聖哲 いたくら まさあき

#### 略 歴

1965.12 生。1988 東京大学文学士（文学部美術史学科卒業）。1991 東京大学文学修士（大学院人文科学研究科修士課程（専攻 東洋美術史）修了）。1992 東京大学文学部助手、1996 大和文華館学芸部部員、1999 東文研助教授。

#### 研究活動の概要

研究領域は東洋、特に中国絵画史。東アジア文化圏においてイメージがどのように共有され、差異化されたかを比較し、イメージの生成・伝播・受容の過程を追究。個別の作品論としては南宋時代の画院画家たちの作品を継続して研究。

#### 過去の主要業績（2000.3 まで）

『唐宋絵画における夕・夜景表現——その素材との関わりについて』『美術史』  
134 冊 1993 133～148 頁

『故宮博物院第4巻 明の絵画』日本放送出版協会 1998 91 頁

『元時代の絵画——モンゴル世界帝国の一世紀』展図録（共編）大和文華館  
1998 173 頁

『馬遠『西園雅集図巻』（ネルソン・アトキンス美術館）の史的位置—虚構としての『西園雅集』とその絵画化をめぐる』『美術史論叢』16 1999  
49～78 頁

ほか 41 点

#### 過去2年間の研究業績

『唐僧取经図冊』（共著）二玄社 2001 32 頁

『喬仲常『後赤壁賦図巻』（ネルソン・アトキンス美術館）の史的位置』『国華』  
1270 2001 9～22 頁

『唐墓壁画に描かれた屏風画』『美術史論叢』18 2002 61～86 頁

ほか論文7点、その他2点

#### 本学以外での教育活動

青山学院大学文学部（2000・2001年度）、学習院大学文学部（2001年度）、九州大学文学部（2001年度）

#### 学外活動

美術史学会、書学書道史学会、日本歴史文化学会、奈良国立博物館調査員

濱下 武志 はました たけし

#### 略 歴

1943.11 生。1972 東大・文・東洋史卒。1974 東大大学院人文・東洋史・修士課程修了。同年同博士課程入学、1976 香港大センター・オブ・エイジアン・スタディーズにパートタイム・リサーチ・アシスタント（1977まで）、1977 東洋文庫奨励研究員（1979まで）、1978 東大大学院博士課程退学、1979 一橋大経済学部専任講師、1981 同助教授、1982 東文研助教授、1988 同教授（2000年より併任）、1996 東文研所長及び東大評議員並びに東洋学文献センター長（1998まで）、2000 京都大学東南アジア研究センター教授、2002 附属東洋学研究情報センター。

#### 研究活動の概要

東南アジア華人と中国華南との歴史的な結びつきを、香港に焦点を当てて研究・調査を行っている。その内容は、華僑送金のメカニズムと、華南・東南アジア間の商業ネットワークを明らかにすることである。

#### 過去の主要業績（2000.3まで）

『中国近代経済史研究—清末海関財政と開港場市場圏』東文研研究報告 1989  
xx+730頁

『近代中国の国際的契機』東京大学出版会 1990 x+315頁

『朝貢システムと近代アジア』岩波書店 1997 xix+232頁

“The Intra-regional System in East Asia in Modern Times”, Takashi Shiraishi and in Peter J. Katzenstein ed. *Network Power, Japan and Asia*, Cornell University Press, Ithaca and London, 1997 113-135頁

#### 過去2年間の研究業績

『沖縄入門』筑摩書房 2000 217頁

『地政論—統治史からみた地域と海域』『地域の世界史11—支配の地域史』山川出版 2000 p.81-132

『東からみた海のアジア史』『海のアジア1 海のパラダイム』岩波書店 2000

学外活動

社会経済史学会(理事) アジア政経学会(理事), 沖縄県教育委員会『歴代宝案』編集委員

高島 淳 たかしま じゅん (2002.5採用)

略 歴

1955.1生。1977学士(教養・東大)。1980修士(文学・東大)。1988東京大学大学院人文科学研究博士課程単位取得退学, 日本学術振興会特別研究員(1990まで), 1990愛知県立大学文学部助教授, 1992東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授, 2000同教授, 2002東文研客員教授(併任)。

研究活動の概要

ヒンドゥー教(シヴァ教)タントリズムを中心に研究を行ってきた。近年は写本資料を用いるための画像データベースや, AA研のCOE形成プログラム「アジア書字コーパスに基づく文字情報学の創成」にもかかわる情報学的研究も多い。

過去の主要業績

「初期シヴァ教僧院(maṭha)の歴史——8~13世紀」『南アジア研究』第1号  
1989 41-56頁

“Dikṣa in the Tantrāloka,” 『東文研紀要』119 1992 45-84頁

「最初期シヴァ教アーガマの思想 I—Svāyambhuvaāgama 知識部」『アジア・アフリカ言語文化研究』48~49号 1995 pp.65-80.

「インドにおける「とき」——劫・輪廻・業」佐藤次高・福井憲彦編『ときの地域史』山川出版社 1999 pp.20-50.

ほか29点

過去2年間の研究業績

「絶対者とヒンドゥー教」阿部美哉・蘭田稔編『世界の宗教を学ぶ人のために』世界思想社, 2002(印刷中)

“Pratiṣṭhā in the Śaiva Āgamas,” *Studies in the Pratiṣṭhā*, ed. S. Einoo (Delhi: Manohar, 2003), in press

「グラント文字」『華麗なるインド系文字』(町田和彦編著)白水社 2001, pp.198-201頁

ほか2点

## 本学以外での教育活動

京都大学文学部・大学院（2002年度集中講義）

## 学外活動

日本宗教学会（評議員）、「宗教と社会」学会，日本南アジア学会

大田 省一 おおた しょういち（2001.11採用）

## 略 歴

1966.6生。1991年東大・文・東洋史卒。1993年東大・工・建築卒。1995年同大大学院工学・建築・修士課程修了。1998年同博士課程単位取得退学，2001年博士（工学）。1998年日本学術振興会海外特別研究員（2000年まで），1998年ベトナム国立ハノイ建設大学アシスタント・レクチャラー（2001年まで），2001年東文研東洋学研究情報センター助手。

## 研究活動の概要

アジアの近代建築史・都市史の研究に携わる。主に仏領期ベトナムの建築・都市を対象として，都市形成の過程，建築表現の変遷，伝統建築の概念の形成過程等のテーマを通して，現地での建築の受容・変容について考察している。

## 過去の主要業績（2000.3まで）

『中国近代建築総覧 済南編』（共著）中国建筑工業出版社 1996 80頁

「重奏するハノイの歴史」『SD』9603 1996 36-45頁

「近代ベトナムにおける住宅様式に関する基礎的研究」『住宅総合研究財団年報』  
No.24 1997 87-96頁

『アジア建築研究』（共著）INAX出版 1999 325頁

*Preservation of Hanoi architectural heritage*（共著）（Hanoi:Nha xuất bản xay  
dung, 1997, 184頁）

ほか7点

## 過去2年間の研究業績（2002.3まで）

「エルネスト・エブラール—フランス人の見た [ベトナム]」『しにか』8 2001  
102-109頁

「南方主義建築の系譜——南のモダニズム・フランス植民地での実践」『10+1』  
No.23 2001 195-204頁

「民間主体の保存・再生活動」日本建築学会第三世界歴史都市・住宅特別研究  
委員会編『東アジアの歴史都市・住宅保存・開発技術指針』日本建築学会

2001 57-67頁

ほか5点

本学以外での教育活動

東京造形大学(2000-2001年度)

学外活動

日本建築学会(アジア近代建築ネットワークWG委員, 第三世界歴史都市・住宅特別研究委員会委員)

深見 奈緒子 ふかみ なおこ (2001.3任期満了)

略歴

1956.11生。1979 東京都立大学・工・建築卒。1981 東京都立大学大学院・工・建築・修士課程終了。1986 東京都立大学・工・建築・研究生(1997まで)、1998 工学博士号取得(横浜国立大学)。同年東京大学東洋文化研究所非常勤講師(1999まで)、横浜国立大学大学院工学研究科非常勤講師、1999 東文研客員教授、2001 東京大学東洋文化研究所非常勤講師。

研究活動の概要

イラン、中央アジア、インドを中心としたイスラーム建築史、都市史研究がテーマである。東京大学インド史跡調査団によって40年前に撮影されたイスラーム建築遺構の写真のデータ・ベース化、公開を手がけている。

過去の主要業績(2000.3まで)

「14世紀を代表するムカルナス——イスラーム建築におけるムカルナス・ヴォールティングに関する研究」『日本建築学会計画系論文集』No.503 1998 pp.211-6

「イスファハーンのマドラサ調査から——建築形態と分布状況について」『東京大学東洋文化研究所紀要』137 1999 pp.257-294

「建築からみたイスラーム・環インド洋世界」『講座世界史第14巻イスラーム・環インド世界16-18世紀』岩波書店 2000 pp.299-326

「イスファハーンのサファヴィー朝期の住宅に関する一考察」『東京大学東洋文化研究所紀要』139 2000 pp.152-206

ほか40点

過去2年間の研究業績

「ハギア・ソフィア大聖堂の内装石材について」『ハギア・ソフィア学術調査団

研究成果報告会報告集』2001 pp.77-89

「インドのモスクに見る彫刻天井」『第8回ヘレニズム～イスラーム考古学研究会』2001 pp.77-85

「イスラーム建築とタイル」『砂漠にもえたつ色彩——中近東5000年のタイル・デザイン』岡山市立オリエンタ美術館 2001 pp.25-28, 49-54 2001

論文4点, その他5点

本学以外での教育活動

横浜国立大学大学院工学研究科(2000・2001年度)

学外活動

建築学会, 建築史学会, 中東学会, オリエンタ学会

井手 誠之輔 いで せいのみすけ (2002.3 任期満了)

略 歴

1959.10 生。1982 九州大学文学部美学美術史学科卒業(学士)。1984 九州大学大学院文学研究科美学美術史専攻修士課程修了(修士)。1984 九州大学文学部美学美術史研究史助手, 1987.7 東京国立文化財研究所情報資料部研究員, 1993.7 東京国立文化財研究所情報資料部主任研究官, 2001 独立行政法人東京文化財研究所情報調整室長, 2001.6-2002.3 東文研客員教授(併任)。

研究活動の概要

東アジア絵画史, とくに日本に伝来する中国・朝鮮の仏教絵画を中心とする調査活動をもとに, それらの作例を視野に入れることで, これまでの宋元および高麗の絵画史, さらに日本における受容史を再検討する試みを続けている。

過去の主要業績(2000.3 まで)

「中峰明本自賛像をめぐる」『美術研究』343 1989 pp.19-36

「陸信忠考——涅槃表現の変容(上)(下)」『美術研究』354・355, 1992, 9/1993, 1 pp.19-34, 28-40

「高麗の阿弥陀画像と普賢行願品」『美術研究』362 1995 pp.1-32

『故宮博物院・南宋の絵画』(小川裕充監修)日本放送協会出版 1998 pp.73-87

ほか18点

過去2年間の研究業績

「高麗仏画の領分」『高麗時代の仏画』日本語版 時空社 2000 pp.368-376

研究資料 見心来復編『澹游集』編目一覧（附、見心来復略年譜）『美術研究』

373 2000 pp. 49-71

『日本の宋元仏画』日本の美術 418号 至文堂 2001 pp. 1-98

ほか6点

著書1点、論文8点

#### 教育活動

東北大学文学部（2000年度）、跡見学園女子大学（2000-2001年度）、

#### 学外活動

美術史学会、東方学会、九州藝術学会、AAS

鈴木 隆泰 すずき たかやす（2001.3退職）

#### 略歴

1964.7生。1989東大・工・精密機械工学科卒。1992東大・文・印哲卒。1995東大大学院人文・印哲印文・修士課程修了。1996同大学院人文社会・インド文学インド哲学仏教学・博士課程退学、同年東文研助手、2001博士（文学）（東京大学）。同年山口県立大学国際文化学部助教授（アジア文化論研究室）。

#### 研究活動の概要

インド大乘經典における諸思想間の交渉と、その交渉に基づく經典編纂の過程を、原典・複数の翻訳資料を用いた〈異訳対照研究〉に基づき解明する。また、Tibetan-Sanskrit 構文対照電子辞書作成にも取り組んでいる。

#### 過去の主要業績（2000.3まで）

“Mutual Influence among the Mahāyāna Sūtras concerning Sarvalokapriyadarśana,” *Journal of Indian and Buddhist Studies* 94 (1999) : 10-14.

『如来常住経としての『大法鼓経』』『仏教文化研究論集』1 1997 39-55頁

『金光明経 如来寿量品』と『大雲経』』『東文研紀要』135 1998 1-48頁

『大雲経』の目指したもの』『インド哲学仏教学研究』5 1998 31-43頁

ほか9点

#### 過去2年間の研究業績

『涅槃経系經典群の研究』東京大学博士学位請求論文 2000 xxiii+522 p.

“The Buddhology in the Mahābhērī-sūtra Inherited from the Saddharmapūṇḍarīka,” *Journal of Indian and Buddhist Studies* 100 (2002).

“The Recompilation of the Mahāparinirvāṇasūtra under the Influence of the



*Mahameghasūtra,*” *Journal of Indian and Buddhist Studies* 98 (2001): 34–38.

ほか6点

本学以外での教育活動

東京外国語大学外国語学部(2000年度)

学外活動

日本印度学仏教学会, 日本仏教学会, 西日本印度学仏教学会

## IX 附属東洋学研究情報センター (RICAS)

東洋学研究情報センター (Research and Information Center for Asian Studies) は、東洋学文献センター (1966年設置) に代わる東洋文化研究所の附属施設として、1999年4月1日に新設された。研究情報センターは、「アジア資料学」という研究分野を確立することを目的とし、具体的には、アジア研究のための資料を組織的に収集・蓄積しデータベース化すること、および資料そのものの性格について研究することを任務としている。センターの研究分野は造形資料学分野と比較文献資料学分野とに分かれる。造形資料学分野は、美術作品・建築・考古資料・民族学資料・地図・挿絵・映像・写真等の非文字資料を、比較文献資料学分野は、漢文や中国語に限らずさまざまなアジアの言語で書かれた書籍、新聞雑誌、<sup>もんじょう</sup>文書、碑文等の文字資料を研究対象とする。センターの教官スタッフは、造形資料学分野担当の教授・助教授各1と、比較文献資料学分野担当の教授・助教授各1に、それらを補佐する助手1、さらにセンター教官と協力してプロジェクトを推進する客員教授1からなる。

東洋学研究情報センターは、旧東洋学文献センターの業務の中からデータベース作成や漢籍整理長期研修など重要なものを引き継いで実施するとともに、旧センター時代の東アジアを中心とした資料蓄積の遺産を継承しつつ、さらに西アジア・東南アジア・南アジアをも含んだアジア全域にわたる造形・文献両資料の蓄積・加工・発信を行う計画である。このような活動に対応するためには、既に狭隘化しているセンターのスペースを積極的に拡大してゆくことは緊急の課題である。さらに、研究方法や資料公開の方法の類似している東大内外の機関との間で共同のプロジェクトを組織し、その実施をはかることも重要な課題となっている。

2000年度と2001年度に実施した主な事業は次のとおりである。

### 1 アジア資料の収集・蓄積

2000・2001年度の受入数は、図書259冊 (和漢書)、新聞の現物9種 (継続)

である。全所蔵数（2002年4月現在）は、図書16,165冊（和漢書15,373冊、洋書792冊）、マイクロフィルム4,508リール（ポジ3,522リール、ネガ986リール）である。なお、新聞は36種を所蔵している。また、1999年度に引き続いて、朝鮮・韓国の族譜のコレクションを430点（2000年度105点、2001年度325点）購入した。

## 2 アジア資料の整理・加工

データベースプロジェクトとして、近代朝鮮関係日本語図書所在データベース、東京大学東洋文化研究所漢籍目録データベース、倉石文庫漢籍の整理・データベース、現代中国書データベース、Tibetan-Sanskrit 構文対照電子辞書構築、内蒙古出土資料の整理・データベース化、インド・イスラーム史跡データベース、東アジア族譜データベース、中国絵画デジタルアーカイブ・プロジェクト等を実施した。またセンターは、研究所で実施されているさまざまなデータベース・プロジェクトを集約する役割を果たした。

センターのプロジェクトを含め、東洋文化研究所のデータベース・プロジェクトはコンピュータ上で進められているので、近い将来、それらを結合し、造形資料と文献資料の両方にまたがった「東洋文化研究所デジタル・アーカイブ」を構築してゆく計画である。

## 3 活動の成果の公開・発信

センターの活動成果の多くはホームページ（<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp>）上で公開されている。

### (a) アジア・デジタル展示館の公開

東洋文化研究所は開所以来、文献資料・写真資料を中心に様々なかたちの資料を収集してきた。そのなかには、漢籍善本のほかにも甲骨片、瓦当、西域壁画断片といった世に知られたものが多数含まれている。この展示館では、造形・文献を問わずそのコレクションの内容を、センターのホームページ上で画像公開する。現在「西域壁画断片」、「仁井田文庫北京水売買文書」、「朝鮮・韓国族譜資料」、「インド・イスラーム史跡写真資料」等が試験公開されている。

## (b) 漢籍整理長期研修の実施

センターの前身である東洋学文献センターでは、1980年度から漢籍整理長期研修を実施してきた。センターは、活動の成果を社会に還元してゆく事業としてこれを引き継ぎ、今後も実施してゆく計画である。2000年度は6月26日から10月6日にかけて実施し、6名が受講した。2001年度は6月25日から10月5日にかけて実施し、6名が受講した。研修受講者は図書館の司書で、受講後それぞれの所属図書館で漢籍の整理にあたり、研修の成果を活用している。また、漢籍のみならず朝鮮・南アジア・西アジアの文献に関する講義も行った。おな、2001年度から、この研修の一部を人文社会系研究科文化資源学専攻の授業として扱うこととなり、院生6名が受講した。

## (c) データベースの公開

### 現代中国書データベース

1996年度に刊行した『東京大学東洋文化研究所現代中国書分類目録・索引』（1990年までに受け入れたものが対象）の内容をセンターのホームページ上で公開している。なお、同データは、CD-ROMに収録し、国立情報学研究所総合目録データベースに提供されている。

### 東洋文化研究所所蔵漢籍目録データベース

東京大学東洋文化研究所に所蔵されている漢籍約7万点を収録する『東洋文化研究所漢籍分類目録』をデジタル化するプロジェクトが進行中であるが、「経部」と「史部」の漢籍については作業が終了し、センターのホームページ上で試験公開されている。

### 近代朝鮮関係日本語図書所在データベース

本データベースは1868-1945年に出版された朝鮮関係日本語図書約17,000冊の日本国内所在データベースである。1999年中に作業を終え、センターのホームページ上で公開されている。

### インド・イスラーム史跡資料データベース

東京大学インド史跡調査団（1959～60、61～62年）が撮影したイスラーム建

築遺構の写真を整理し、その総計750件近いイスラーム建築の写真データ（約20000枚）のうち、3000枚あまりをデジタル化し、一部をデータベースとして公開した。また、デリーの遺構約2300枚についても2002年度中に公開の予定である。

#### (d) 『明日の東洋学』の刊行

東洋学文献センターのニューズレターとして親しまれてきた『センター通信』を全面的に衣替えし、『明日の東洋学』を1999年度に創刊した。2000年度は第4～5号、2001年度は第6～7号を刊行した。

#### (e) 『東洋学研究情報センター叢刊』の刊行

旧東洋学文献センターの『東洋学文献センター叢刊』に代えて、『東洋学研究情報センター叢刊』の第1輯として『東京大学東洋文化研究所所蔵田中則雄氏旧蔵書目録』を発刊した。

### 4 全国文献・情報センター長会議

#### 第36・37回全国文献・情報センター長会議

センターは、東京大学法学部附属外国法文献センター、一橋大学経済研究所附属日本経済統計情報センター、京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター、および神戸大学経済経営研究所附属経営分析文献センターと共に、全国文献・情報センター長会議（5センター長会議）の構成員となっている。2000年度は、第36回センター長会議（2000年11月17日東京大学法学部附属外国法文献センター）、2001年度は、第37回センター長会議（2002年2月8日神戸大学経済経営研究所附属経営分析文献センター）に参加した。

#### 全国文献・情報センター人文社会科学学術情報セミナー

全国文献・情報センター長会議は95年度から、各センターが収集した資料情報を広く研究者に提供するために「全国文献・情報センター人文社会科学学術情報セミナー」（5センター共催セミナー）を開催してきた。本センターは、2000年度は、主催校として「アジア情報学のフロンティア」をテーマに開催し（2000年11月20～22日学術総合センター）、2001年度は「人文社会情報とIT」（2001年11月19～20日東京大学総合図書館）に参加した。

## X 刊行物一覧 (・印は在庫なし)

### A 東洋文化研究所刊行物

#### 1. 『東洋文化研究所紀要』

第 140 冊 (2000 年 12 月)

法典編纂史再考

——漢篇：再び文献史料を中心に据えて 陶安あんど

『祖堂集』鳥窠和尚と白居易

——『祖堂集』研究会報告之二 松原 朗・衣川 賢次・小川 隆

天書と泰山

——『宣和遺事』よりみる『水滸伝』成立の謎 大塚 秀高

魯迅の祖父周福清攷 (十二)

——その家系、生涯及び人物像について 松岡 俊裕

オスマン検地帳に見る 18 世紀初頭イランの地方社会 (1)

——イラン西部アルダラーン地方の農村と遊牧民社会 山口 昭彦

ラージャシェーカラ作 *Kāvyaṃīmāṃsā* 訳注 (第 4 章～第 6 章)

上村 勝彦

安慰説者

——央掘魔羅経と大法鼓経のトレーガー 鈴木 隆泰

メイド・イン・タイランド

——「タイシルク」の来歴に関するノート 小泉 順子

近現代中国における寡婦の地位

——守節と再婚をめぐる 白水 紀子

梅娘と「満州」文壇

張 欣

朝鮮の開花と井上角五郎

——日韓関係史の「脱構築」を促す問題提起 金 鳳珍

第141冊(2001年3月)

此鼎銘文考釈

——陝西省岐山縣董家村出土青銅器の研究(三)

竹内 康浩

明清時代の罪名例

——「情」と法的合理性

陶安あんど

懶瓚和尚『樂道歌』攷

——『祖堂集』研究會報告之三

土屋 昌明・衣川 賢次・小川 隆

陳啓修、東京におけるその文学的営為

——日本留学から北京大学教授に

芦田 肇

【陳啓修覚書(一)】

異訳対照に基づくインド大乘經典史解読の一例

鈴木 隆泰

中国語動詞と形容詞とが構成する統合型の文法的意義特徴(その2)

——動詞と形容詞“清楚”の結びつきを通して

大滝 幸子

梅娘と「淪陥時期」北京文壇

張 欣

新儒学と科学

——一つの問題提起

金 鳳珍

中国のWTO加盟に向けて

——国有企業改革と産業界の対応

今村 弘子

岡本サエ教授 略歴・主要著作目録

2. 『東洋文化』

第81号(2001年3月) 特集『左傳』と『周禮』

序説

平勢 隆郎

『春秋』三傳と祭祀

石黒ひさ子

『左傳』の引詩に關する一考察

——「賦詩斷章」の背景

小寺 敦

『左傳』に引かれる『書』の性格

高津 純也

盟誓における載書についての一考察

呂 靜

前漢末～後漢における地方官制と『周禮』

阿部 幸信

『周禮』の構成と成書國

平勢 隆郎

『周禮』の内容分類

平勢 隆郎

第82号(2002年3月) 特集 “環ベンガル湾世界の諸相”

序	加納 啓良
インド近代史における遠隔地貿易と地域交易 ——1868-1938年	杉原 薫
植民地期の蘭印・英印貿易関係 ——蘭印側統計からの観察	加納 啓良
日印合弁マッチ工場の成立と展開 1910-20年代 ——ベンガル湾地域の市場とムスリム商人ネットワーク	大石 高志
ミャンマーの国営製糖業と耕作農民	高橋 昭雄
植民地期の上ビルマー村落における農地の所有と質入れ ——チャウセー県の事例	水野明日香
スリランカ年表——英領植民地時代から現代まで	小槻 文洋

3. 東洋文化研究所研究報告

- \*1. 仁井田 陞『中国の農村家族』 1952
- \*2. 周藤 吉之『中国土地制度史研究』 1954
- \*3. 泉 靖一・斎藤 廣志『アマゾン その風土と日本人』 1954
- \*4. 大林 太良『東南アジア大陸諸民族の親族組織』 1955
- \*5. 結城 令聞『世親唯識の研究 上』 1956
- \*6. 関野 雄『中国考古学研究』 1956
- \*7. 窪 徳忠『庚申信仰』 1956
- \*8. 江上 波夫他『館址 東北地方における集落址の研究』 1958
- \*9. 仁井田 陞『中国法制史研究 刑法』 1959
- \*10. 仁井田 陞『中国法制史研究 土地法・取引法』 1960
- \*11. 米澤 嘉圃『中国絵画史研究』 1961
- \*12. 結城 令聞『唯識学典籍志』 1962
- \*13. 仁井田 陞『中国法制史研究 奴隸農奴法・家族村落法』 1962
- \*14. 築島 謙三『文化心理学基礎論』 1962
- \*15. 窪 徳忠『庚申信仰の研究 年譜篇』 1962
- \*16. 仁井田 陞『中国法制史研究 法と慣習・法と道德』 1964
- \*17. 鎌田 茂雄『中国華嚴思想史の研究』 1965
- \*18. 江上 波夫『アジア文化史研究 要説篇』 1965



- \*19. 泉 靖一『济州島』 1966
- \*20. 江上 波夫『アジア文化史研究 論考篇』 1967
- \*21. 鈴木 敬『明代絵画史研究 浙派』 1968
- \*22. 窪 徳忠『庚申信仰の研究 島嶼篇』 1969
- \*23. 中根 千枝『家族の構造 社会人類学的分析』 1970
- \*24. 窪 徳忠『沖縄の習俗と信仰』 1971
- \*25. 川野 重任『農業発展の基礎条件』 1972
- \*26. Nakamura Kojiro, *Ghazali on Prayer*, 1973
- \*27. 窪 徳忠『増訂 沖縄の習俗と信仰』 1974
- \*28. 鎌田 茂雄『宗密教学の思想史的研究』 1975
- \*29. 松井 透『北インド農産物価格の史的研究 1861~1921年』 1977
- \*30. 荒 松雄『インド史におけるイスラム聖廟 宗教権威と支配権力』  
1977
- \*31. 池田 温『中国古代籍帳研究 概観・録文』 1979
- \*32. 田仲 一成『中国祭祀演劇研究』 1981
- \*33. 松丸 道雄『東京大学東洋文化研究所蔵甲骨文字 図版篇』 1983
- \*34. 田仲 一成『中国の宗族と演劇 華南宗族社会における祭祀組織・儀礼  
及び演劇の相関構造』 1985
- \*35. 鎌田 茂雄『中国の仏教儀礼』 1986
- \*36. 松井 透『イギリス支配とインド社会 19世紀前半北インド史の一研  
究』 1987
- \*37. 鎌田 茂雄『新羅仏教史序説』 1988
- \*38. 斯波 義信『宋代江南経済史の研究』 1988
- \*39. 田仲 一成『中国郷村祭祀研究 地方劇の環境』 1989
- \*40. 濱下 武志『中国近代経済史研究 清末海関財政と開港場市場圏』  
1989
- \*41. 上村 勝彦『インド古典演劇論における美的経験 Abhinavagupta の  
rasa 論』 1990
- 42. 宮嶋 博史『朝鮮土地調査事業史の研究』 1991
- 43. 柳澤 悠『南インド社会経済史研究 下層民の自立化と農村社会の変  
容』 1991
- 44. Matsutani Toshio ed., *Tell Kash kashok*  
*The Excavations at Tel No. II*, 1991
- 45. 山田 三郎『アジア農業発展の比較研究』 1992

- \*46. 蜂屋 邦夫『金代道教の研究 王重陽と馬丹陽』 1992
- \*47. Tomosugi Takashi, *Reminiscences of Old Bangkok: Memory and the Identification of a Changing Society*, 1993
- \*48. 田仲 一成『中国巫系演劇研究』 1993
- \*49. 原 洋之介『東南アジア諸国の経済発展 開発主義的政策体系と社会の反応』 1994
- 50. 岡本 さえ『清代禁書の研究』 1996
- \*51. 丸尾 常喜『魯迅『野草』の研究』 1997
- \*52. 末成 道男『ベトナムの祖先祭祀 潮曲の社会生活』 1998
- \*53. 蜂屋 邦夫『金元時代の道教 七真研究』 1998
- 54. 小倉 泰『インド世界の空間構造 ヒンドゥー寺院のシンボリズム』 1999
- \*55. 平勢 隆郎『左傳の史料批判的研究』 1999
- 56. 上村 勝彦『インド古典詩論研究 アーナンダヴァルダナの dhvani 理論』 1999
- 57. 岡本 さえ『近世中国の比較思想』 2000
- \*58. 橋本 秀美『義疏學衰亡史論』 2001

#### 4. 東洋文化研究所叢刊

- \*1. 鎌田 茂雄『華嚴学研究資料集成』 1983
- 2. 深井 晋司編『ターク・イ・ブスターンⅢ 実測図集成』 1983
- \*3. 鎌田 茂雄『禪典籍内華嚴資料集成』 1984
- 4. Nakane Chie ed., *Social Science and Asia*, 1984
- \*5. 蜂屋 邦夫編『儀禮士冠疏』 1984
- \*6. 鎌田 茂雄『道藏内仏教思想資料集成』 1986
- 7. 山田 三郎編『中部タイ稲作農村の経済変容』 1986
- \*8. 蜂屋 邦夫編『儀禮士昏疏』 1986
- \*9. Seki Hiroharu, *The Asia-Pacific in the Global Transformation* 1987
- \*10. 蜂屋 邦夫編『中国道教の現状 道士・道協・道観』 1990
- \*11. 池田 温編『中国古代寫本識語集録』 1990
- \*12. Tomosugi Takashi, *Rethinking the Substantive Economy in Southeast Asia*, 1991

- \*13. 松丸 道雄編『甲骨文字字釋綜覧』 1993
- \*14. 加納 啓良編『中部ジャワ農村の経済変容 チョマル郡の85年』 1994
- \*15. 平勢 隆郎『新編史記東周年表 中國古代紀年の研究序章』 1995
- \*16. 蜂屋 邦夫『中国の道教 その活動と道観の現状』 1995
- \*17. 羽田 正『シャルダン『イスファハーン誌』研究 17世紀イスラム圏  
都市の肖像』 1996
- \*18. 平勢 隆郎『中國古代紀年の研究 天文と暦の検討から』 1996

## 5. イラク・イラン遺跡調査団報告

- 『テル・サラサート I』 \*1958, 『同 II』 \*1970, 『同 III』 1975, 『同 IV』 1981
- 『マルグ・ダシュト I』 \*1962, 『同 II』 \*1962, 『同 III』 1973
- 『ファハリアン I』 \*1963
- 『西アジアの人類学的研究 I』 \*1963, 『同 II』 \*1968
- 『デーラマン I』 \*1965, 『同 II』 \*1966, 『同 III』 \*1968, 『同 IV』 1971
- 『ターク・イ・ブスターン I』 \*1969, 『同 II』 \*1972, 『同 III』 1983, 『同 IV』  
1984
- 『ハリメジャン I』 1980, 『同 II』 1982

## 6. インド史跡調査団報告

- 『デリー：デリー諸王朝時代の建造物の研究』 第 I 卷 遺跡総目録 \*1967,  
第 II 卷 墓建築 \*1969, 第 III 卷 水利施設 \*1970

## 7. 東アジア部門美術研究分野報告

- 『中國繪畫総合圖録』
  - 第一卷 アメリカ・カナダ篇 \*1982
  - 第二卷 東南アジア・ヨーロッパ篇 \*1982
  - 第三卷 日本篇 I 博物館 \*1983
  - 第四卷 日本篇 II 寺院・個人 \*1983
  - 第五卷 総索引 \*1983

- 『中國繪畫總合圖録 續編』 第一卷 アメリカ・カナダ篇 \*1997  
第二卷 東アジア・ヨーロッパ篇 \*1997  
第三卷 日本篇 \*1999  
第四卷 総索引 \*2000

## 8. 蔵書目録

- 『東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録』 \*1973  
『東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録 書名人名索引』 \*1975  
『東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録』 重版 \*1981, \*1996  
『東京大学東洋文化研究所現代中国書分類目録』 \*1996  
『東京大学東洋文化研究所現代中国書分類目録』 索引 \*1996

## 9. その他

- 『アジアの社会と文化』 創立40周年記念論集 全三巻 \*1982  
『東洋文化研究所の50年』 創立50周年記念誌 1991  
『アジアの文化と社会』 創立50周年記念論集 全三巻 \*1992  
『東京大学東洋文化研究所外部評価報告書』 1996  
『東京大学東洋文化研究所外部評価報告書』 \*1999  
*Conference Proceedings, Asia in the Twenty-First Century : Toward a New Framework of Asian Studies,* \*1996  
『アジアを知れば世界が見える』 \*2001

## B 東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター刊行物

### 1. 東洋学研究情報センター叢刊

第1輯 東京大学東洋文化研究所蔵田中則雄氏旧蔵書目録 2002

### 2. 東洋学文献センター叢刊

- \*第1輯 東洋文化研究所東洋学文献センター 新収図書目録（昭和41年度）  
1968
- \*第2輯 清代地方劇資料集（一） 1968
- \*第3輯 清代地方劇資料集（二） 1968
- \*第4輯 周揚著訳論文・周揚批判文献目録 1969
- \*第5輯 郁達夫資料 1969
- \*第6輯 東洋文化研究所東洋学文献センター 新収図書目録（昭和42・43年度） 1970
- \*第7輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇（上） 1970
- \*第8輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇（中） 1970
- \*第9輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇（下） 1970
- \*第10輯 李大釗文献目録 1970
- \*第11輯 明刊元雜劇西廂記目録 1970
- \*第12輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇・編著者名索引 1970
- \*第13輯 魯迅全集注釈索引 1971
- \*第14輯 1930年代中国文芸雑誌（一） 1971
- \*第15輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇（Ⅰ） 1972
- \*第16輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇（Ⅱ） 1972
- \*第17輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇（Ⅲ） 1972
- \*第18輯 郁達夫資料補篇（上） 1973
- \*第19輯 切韻殘卷諸本補正 1973
- 第20輯 目録学 1973
- 第21輯 花間集索引 1974

- 第22輯 郁達夫資料補編(下) 1974
- \*第23輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(一) 1975
- 第24輯 江西蘇区文学運動資料集 1976
- \*第25輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(二) 1976
- 第26輯 民国以来人名字号別名索引 1977
- 第27輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目(一)  
1978
- 第28輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(三) 1978
- 第29輯 中国左翼文芸理論における翻譯・引用文献目録 1978
- 第30輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(四) 1979
- 第31輯 儀礼疏攷正(上) 1979
- 第32輯 儀礼疏攷正(下) 1979
- 第33輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(五) 1980
- 第34輯 小説月報(1920-1931)總目録 1980
- 第35輯 コミンテルン定期刊行物 中国關係論說・記事索引 1981
- 第36輯 魯迅文言語彙索引 1981
- 第37輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目(二)  
1982
- 第38輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目(三)  
1982
- 第39輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(六) 1983
- 第40輯 東洋文化研究所所藏 中国土地文書目録・解説(上) 1983
- 第41輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目(四)  
1983
- \*第42輯 校合本 大越史記全書(上) 1984
- \*第43輯 『植民地雜誌』(*Koloniaal Tijdschrift*) 所収論文目録 1984
- 第44輯 校合本 大越史記全書(中) 1985
- 第45輯 江西蘇区紅色戲劇資料集 1985
- 第46輯 宋之間詩索引 1985
- \*第47輯 校合本 大越史記全書(下) 1986
- \*第48輯 東洋文化研究所所藏 中国土地文書目録・解説(下) 1986
- \*第49輯 許舒博士所輯 廣東宗族契摺彙録(上) 1987
- 第50輯 沈佺期詩索引 1987
- 第51輯 中華人民共和國・朝鮮民主主義人民共和國 職官歴任表 1987

東京大学  
東洋文化研究所  
要覧  
2002



獅子像

- 第52輯 韓国政治エリート研究資料——職位と略歴 1987
- 第53輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(五)  
1988
- \*第54輯 許舒博士所輯 廣東宗族契摺彙録(下) 1988
- 第55輯 南嶽思大禪師立誓願文索引——六朝隋唐宗教・思想資料 1988
- 第56輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(六)  
1988
- 第57輯 郁達夫資料総目録附年譜(上) 1989
- 第58輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(七)  
1989
- 第59輯 郁達夫資料総目録附年譜(下) 1990
- 第60輯 山西票号資料 書簡篇(一) 1990
- 第61輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(八)  
1990
- 第62輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(九)  
1991
- 第63輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目収載  
雑誌名索引 1992
- 第64輯 許壽裳日記(自1940年8月1日至1948年2月18日) 1993
- 第65輯 許舒博士所藏 商業及び土地契約文書——乾泰隆文書(1) 潮汕地区  
土地契約文書 1995
- 
- 別輯 1 東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録(書名・人名索引)・京都大学  
人文科学研究所漢籍分類目録(書名・人名通檢)合併 四角號碼檢字  
表 1975
- 別輯 2 海外所在中国絵画目録(アメリカ・カナダ編) 1977
- \*別輯 3 海外所在中国絵画目録(東南アジア・ヨーロッパ編) 1981
- \*別輯 4 日本所在中国絵画目録(寺院編) 1982
- 別輯 5 LABRANG 李安宅の調査報告 1982
- \*別輯 6 日本所在中国絵画目録(博物館編) 1982
- \*別輯 7 日本所在中国絵画目録(個人蒐集編) 1983
- 別輯 8 中国經濟關係雑誌記事総目録(一)——『中外經濟周刊』『經濟半月刊』  
『工商半月刊』 1983



- 別輯 9 孟郊詩索引（上） 1984
- 別輯 10 孟郊詩索引（下） 1984
- 別輯 11 中国経済関係雑誌記事総目録（二）——『国際貿易導報』 1985
- 別輯 12 中国経済関係雑誌記事総目録（三）——『中行月刊』 1985
- 別輯 13 『内務行政雑誌』所収論文・記事目録（A Catalogue of the Articles in *Tijdschrift voor het Binnenlandsch Betuur*） 1985
- 別輯 14 中国経済関係雑誌記事総目録（四）——『銀行週報』（上） 1987
- 別輯 15 春秋晋国 『侯馬盟書』字体通覧——山西省出土文字資料 1988
- 別輯 16 中国経済関係雑誌記事総目録（五）——『銀行週報』（下） 1989
- \*別輯 17 海外所在中国絵画目録 改訂増補版（ヨーロッパ編） 1992
- \*別輯 18 海外所在中国絵画目録 改訂増補版（アメリカ・カナダ編 上 本文編） 1994
- \*別輯 19 海外所在中国絵画目録 改訂増補版（アメリカ・カナダ編 下 索引編） 1994
- 別輯 20 『販書偶記』正統編合併刊行目録 1995
- \*別輯 21 海外所在中国絵画目録 改訂増補版（東アジア編） 1997
- \*別輯 22 日本所在中国絵画目録 続編 1998
- 別輯 23 天津史文献目録 1998
- 別輯 24 東京大学東洋文化研究所仁井田文庫漢籍目録 1999

### 3. 漢籍所在調査報告書

1. 長崎大学附属図書館経済学部分館漢籍分類目録・熊本大学附属図書館落合文庫漢籍分類目録 1980
2. 新潟県立新潟図書館漢籍分類目録・新発田市立図書館漢籍分類目録 1982
3. 愛媛大学附属図書館漢籍目録・書名人名索引 1984・85

### 4. 大型コレクション目録

*Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection, Institute of Oriental Culture, University of Tokyo, by Hans Daiber* [東京大学東洋文化研究所所蔵アラビア語写本（ダイバーコレクション）目録] 1988

*Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection II, Institute of*

*Oriental Culture, University of Tokyo, by Hans Daiber* [東京大学東洋文化研究所所蔵アラビア語写本(ダイバーコレクションⅡ)目録] 1996



2002年11月21日

## 東京大学東洋文化研究所

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

電話 (03) 5841-5833

ファクシミリ (03) 5841-5898

ホームページ URL <http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp>

印刷 三秀舎

デザイン 小山忠男

写真 研究所スタッフ